大阪府教育委員会文化財調査事務所年報

11

2007年11月

大阪府教育委員会

はじめに

平成9年4月に開設した文化財調査事務所は、平成18年度末をもって最初の10年を積み重ねました。この間、私たちを取り巻く社会環境は、規制緩和や国から地方公共団体への権限委譲など、加速度を増して変化しています。文化財保護行政も発掘調査の積算標準、埋蔵文化財調査の標準や出土品の取り扱いなどについて、わかりやすい基準を作成し、実施に努めてきました。

また文化財調査事務所では、過去10年間に延べ721件の発掘調査を実施しました。このうち継続的に実施している蔀屋北遺跡の発掘調査では、百済系渡来人が深く関わった古墳時代の「牧」様子が明らかとなってきています。また、加納・平石古墳群の発掘調査では、古代の人びとが描いた終末期古墳の壮大な設計を知ることができました。日々の地道な発掘調査の実施により、このような調査の成果が積み重ねられて来ています。

今年度、文化財調査事務所は、次の10年へ向けての新たな一歩を踏み出します。これまで以上に文化財の保存と活用に努めて参りますので、なお一層のご協力とご支援を賜りますようお願いいたします。

平成19年11月

大阪府教育委員会事務局
文化財保護課長　冨尾昌秀

例　　言

1．本書は、大阪府教育委員会文化財調査事務所年報第11冊である。

2．本書には、本府教育委員会が実施した平成18年度の発掘調査及び普及啓発活動等の記録を記載している。

3．埋蔵文化財調査の中の主要なものについては、その概要報告を掲載した。各概要報告の表題に示す数字列及び番号は以下の内容を示している。

なお、概要報告表題の調査番号は第３・４表の調査番号と一致する。

遺跡名（平成18年度調査番号）

（１）所在地

（２）調査の原因となった事業

（３）調査担当者

4．各項の執筆分担は次のとおりである。

「平成18年度における埋蔵文化財調査の概況」	調査管理グループ　玉井 功
「主要発掘調査の概要報告」	調査第一・二グループ
「資料紹介」	調査第一グループ
「平成18年度普及啓発・広報事業及び資料」	調査管理グループ
「平成18年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧」	調査管理グループ
「平成18年度資料の貸出・掲載・閲覧事業一覧」	調査管理グループ
「平成18年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図」	調査管理グループ

5．本書の編集は、調査管理グループが行った。

6．本書は500部作成し、一部あたりの単価は365円である。

目　　次

はじめに
例　　言
目　　次
挿図目次
表 目 次
グ ラ フ
平成18年度における埋蔵文化財調査の概況……1
【主要発掘調査の概要報告】
蔀屋北遺跡　（０６００２・０６０３８）……6
招提中町遺跡　（０５００７・０６００３）……8
高木遺跡　（０６００４）……9
大和川今池遺跡　（０６００７）……10
林遺跡・国府遺跡　（０６００９）……11
桜井駅跡　（０５０２５・０６０１０）……12
堀遺跡　（０６０１３）……13
平石遺跡　（０６０１４）……14
安松田遺跡　（０６０１６）……15
府中遺跡　（０６０１７）……16
田尻遺跡　（０６０２３）……17
鮎川・ミクリ遺跡　（０６０２４）……18
大町遺跡　（０６０３１）……19
旧府庁跡　（０６０３７）……21
府道春木岸和田線試掘　（０６０３９）……22
山城廃寺　（０６０４９）……23
陵西遺跡　（０６０５２）……24
和泉寺跡　（０６０５７）……25
島泉南遺跡　（０６０５８）……26
千里丘遺跡群　（０６０６１）……27
【資料紹介】
高槻住宅（北園遺跡）・高槻市芝生住宅試掘調査……28
旧府庁跡出土の刻印資料……30
平成18年度普及啓発・広報事業及び資料……32
平成18年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧……34
平成18年度資料貸出・掲載・閲覧事業一覧……35
平成18年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図……43

挿図目次

第１図　調査位置図……5
第２図　Ｆ調査区全景（北から）……6
第３図　漆塗木製鞍出土状況……6
第４図　蔀屋北遺跡F調査区全体図……7
第５図　住居１（西より）……8
第６図　住居２（北より）……8
第７図　建物２（西より）……8
第８図　調査区位置図（Ｓ＝1/7,500)……9
第９図　３トレンチ（西から）……9
第10図　大和川今池遺跡調査区位置図……10
第11図　大和川今池遺跡　３・４区全景……10
第12図　調査地点位置図……11
第13図　埴輪を敷いた埋葬施設……11
第14図　調査地点の地形断面図……11
第15図　桜井駅跡調査区と周辺の遺跡……12
第16図　調査区位置図（Ｓ＝1/15,000）……13
第17図　Ｂ区〔北半部〕第８面（東から）……13
第18図　調査区配置図……14
第19図　平石谷遺跡分布図……14
第20図　調査地位置図……15
第21図　調査区配置図……15
第22図　3区遺構平面図……15
第23図　炭集積1検出状況……16
第24図　縄文土器出土状況……16
第25図　調査地点位置図（Ｓ＝1/40,000）……17
第26図　土層図……17
第27図　調査区位置図……18
第28図　基本層序模式図……18
第29図　２区遺構図……19
第30図　木組井戸47（南西から）……20
第31図　石組井戸48（南から）……20
第32図　石組井戸48側面（南西から）……20
第33図　木組井戸47側面図……20
第34図　石組井戸48平面図・断面図……20
第35図　旧府庁（増築後）平面図・検出遺構位置……21
第36図　Ａ区建物基礎煉瓦壁体（南から）……21
第37図　調査地位置図……22
第38図　調査区配置図……22
第39図　断面模式図……22
第40図　遺跡位置図……23
第41図　調査地点位置図……23
第42図　山城新池北堤……23
第43図　調査区位置図……24
第44図　調査状況（東から）……24
第45図　平面図・断面図……24
第46図　調査地位置図……25
第47図　出土遺物実測図……25
第48図　調査区位置図……26
第49図　ＳＤ01土器出土状況……26
第50図　遺構図……26
第51図　調査区位置図……27
第52図　中世遺構面平面図……27
第53図　調査区全景……27
第54図　高槻住宅（北園遺跡）試掘調査位置図……28
第55図　高槻芝生住宅試掘調査区位置図……28
第56図　高槻住宅（現・北園遺跡）試掘調査区土層断面図……29
第57図　１～６高槻住宅（現・北園遺跡）試掘出土遺物　7高槻芝生住宅試掘出土遺物……29
第58図　高槻芝生住宅試掘土層断面図……29
第59図　高槻住宅（北園遺跡）試掘調査Ａ７トレンチ……29
第60図　高槻芝生住宅試掘トレンチＡ５トレンチ……29
第61図　「授産所」刻印煉瓦……30
第62図　煉瓦刻印拓本……31
第63図　刻印写真……31
第64図　蔀屋北遺跡現地説明会……32
第65図　出土品に登場する生き物　動物編……33
第66図　土器・どき・ドキ展……34

表目次

第１表　原因別調査種別表……1
第２表　地域別調査面積・件数一覧表……1
第３表　平成18年度調査箇所一覧表（１）……3
第４表　平成18年度調査箇所一覧表（２）……4
第５表　大阪府救済事業史「授産所」関係年表…30
第６表　大阪府救済事業史各設置場所での変遷…30

グラフ

グラフ１　原因別調査面積の推移……2
グラフ２　地域別調査面積の推移……2

平成18年度における埋蔵文化財調査の概況

18年度の調査面積と件数

大阪府教育委員会が18年度に調査を実施した件数は発掘調査20件、試掘調査13件、確認調査13件、立会調査22件の合計68件であった。遺物整理事業は12件あり、報告書や概要報告書を刊行したのは12冊であった。一般向けにはブックレット２「修羅」を刊行した。

立会調査や遺物整理事業は調査面積を算出することが出来ないので、それらを除く発掘調査、試掘調査、確認調査の面積を合計すると31,525㎡となる。この調査面積は調査事務所を開設した平成8年からの統計を見ると最も少ない数字である。昨年17年度から見ると54％にしかならない。

発掘調査件数が昨年度は31件であったのが今年度は20件に大幅に減少している。17年度に事業者と覚書を交わしたのは79件で18年度は68件であり、１割以上減少した。１件あたりの面積を比較すると、17年度は921㎡で、18年度は685㎡となる。1件あたりの手間は変わらないので非常に効率の悪い調査を強いられたことになる。

事業者別に見ていくと住宅関係は17年度が７件15,453㎡であったのが、18年度は15件14,730㎡となり、面積はあまり変わらないのに件数の増加が見られる。これは一件あたりの調査面積が半分になったことを示す。

農林関係は17年度が9件で9,068㎡であったのが、18年度は４件1,970㎡となった。面積は大幅に減小した。一件あたりの調査面積は1,007㎡から492㎡と約半数にまで減少したことになる。

道路関係は17年度が33件12,712㎡であったものが、18年度は22件7,468㎡となった。一件あたりの面積は385㎡から339㎡とほぼ同面積であるが、調査件数が大幅に減少したことが際立っている。

下水関係は17年度が9件8,174㎡、18年度が5件2,181㎡となった。調査面積が４分の１になった。河川関係は２件9,063㎡から２件3,883㎡となった。１件あたりの調査面積は4,500㎡から1,941㎡と半数にまで落ち込んだ。

住宅関係を除き軒並み調査面積の減少が見られ、大阪府関係の公共事業だけを調査しているため、大阪府の施策を如実に反映しているといえる。

地域別に見ると調査面積は地域による面積の違いが顕著に出ている。軒並み減少しているなかで17年度から18年度に調査面積が増加しているのは中河内地域と泉南地域である。泉南地域は住宅建設や道路整備が実施されたためで、中河内地域は公園整備、道路整備、水道事業によるものである。北河内地域が17年度の20,923㎡から18年度は13,252㎡と辛うじて調査面積を保っているのは蔀屋北遺跡のなわて水環境保全センターの調査が収束に向かっているなかで、住宅建設の招提中町遺跡が調査面積を維持しているためである。

大阪府の財政状況から各事業者の予算が絞られたことにより、１件あたりの調査面積が小さくなった。調査面積が小さくなったために調査にかかる手間隙は多くなり、作業効率は大幅に悪くなっている。ま

第１表　原因別調査種別表

	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
住　宅	10,696	15	16,304	10	26,271	21	23,590	15	19,623	14	11,340	11	7,905	10	12,522	19	13,817	17	15,453	7	14,730	15
農　林	11,539	15	15,482	10	15,026	21	9,242	17	13,817	18	15,250	14	8,147	12	12,441	7	10,308	6	9,068	9	1,970	4
道　路	8,870	16	14,074	15	9,590	19	4,159	17	3,504	14	1,518	18	4,256	20	11,008	21	11,423	18	12,712	33	7,468	22
下　水	1,948	7	294	10	4,355	9	4,149	6	5,066	9	22,698	14	16,846	12	13,017	6	13,150	7	8,174	9	2,181	5
河　川	1,738	9	2,351	9	1,125	6	841	7	530	3	1,389	6	146	4	1,598	4	5,204	5	9,063	2	3,883	2
高　校	1,844	7	1,680	2	750	1	8	1	425	3	526	4	8	1	1,054	7	144	9	809	7	24	8
その他	207	7	3,946	9	665	9	2,046	9	9,220	9	2,000	6	1,199	6	745	6	246	10	2,793	12	1,269	12
合　計	36,842	76	54,131	65	57,782	86	44,035	72	52,185	70	54,721	73	38,507	65	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68

＊面積は㎡である

第２表　地域別調査面積・件数一覧表

	8年度		9年度		10年度		11年度		12年度		13年度		14年度		15年度		16年度		17年度		18年度	
	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数
大阪市	70	6	143	3	296	6	572	4	0	0	1,880	2	1,304	3	258	5	238	6	245	2	120	4
泉　南	9,882	14	2,901	17	5,206	20	8,638	19	9,810	12	5,723	17	450	5	8,971	8	4,782	11	1,417	13	4,794	8
泉　北	6,760	7	15,359	8	5,922	12	3,531	6	6,240	8	834	6	5,043	10	3,897	9	7,861	16	7,357	13	465	7
南河内	2,692	8	20,144	8	26,178	19	9,324	18	11,450	19	19,747	16	9,381	18	14,250	14	8,388	12	16,433	15	4,942	10
中河内	2,099	14	6,676	11	1,205	8	665	8	8,768	12	3,385	15	949	14	3,319	13	887	9	50	11	1,225	16
北河内	4,664	11	3,738	9	7,948	10	10,396	5	4,978	10	16,263	4	17,664	4	15,733	10	18,064	9	20,923	15	13,252	10
三　島	2,163	4	1,523	7	5,779	6	4,883	7	10,629	8	6,572	9	2,175	8	5,957	11	14,060	8	11,287	8	6,677	12
豊　能	8,513	12	3,647	2	5,249	5	6,026	5	310	1	317	5	1,541	3	0	0	12	1	360	2	50	1
合　計	36,843	76	54,131	65	57,783	86	44,035	72	52,185	70	54,721	74	38,507	65	52,385	70	54,292	72	58,072	79	31,525	68

＊面積は㎡である

た、年度により調査件数や要調査面積が大きく増減するのも問題がある。毎年、調査件数や面積が一定していることが望ましい。調査技師の定数が大幅に減少しているので、今後調査を効率よくスムーズに実施していくために、関係者との調整をより厳格にしていく必要がある。

主な調査

調査結果については各報告をお読みいただければ幸です。ここでは特質すべきものだけを記述しておきたい。

蔀屋北遺跡の調査は収束に向かっているが、今回の調査でも古墳時代の遺構がたくさん検出されている。Ｆ地区の古墳時代中期大溝からは韓式系土器、陶質土器をはじめ鉄器、木製農具、石製品が出土しているが、なかでも漆塗り木製鞍は丁寧な造りで鞍の制作方法を復元するためにも、また、この地の河内馬飼い集団の解明のためにも重要な遺物となろう。

林遺跡では５世紀の埴輪を使用した７世紀の埋葬施設が検出されたほか、高塚古墳の西端の基底部がみつかった。かつて道路建設で削平され実態が不明であった高塚古墳の一端が明らかになる可能性がある。

これまで遺跡外でその全貌が不明であった桜井駅跡の調査が実施された。縄文時代から弥生時代中期、古墳時代前期の遺物や遺構が検出されている。中世では屋敷跡が見つかっている。

府中遺跡では縄文時代中期末の土器が多く出土し、泉地域の縄文時代の様相を解明するのに必要な資料である。

大阪市西区江之子島の調査では明治から大正にかけて、大阪府庁や大阪府工業奨励館として活用された建物跡が調査された。明治時代のレンガ基礎や大正時代の地下室などが検出された。基礎部分ではあるが、数少ない近代建築の調査として重要である。

島泉南遺跡では幅１ｍ全長１０ｍ以上の古墳時代中期の溝が検出され、狭い範囲に完形の土器が集中して集積していた。古市古墳群と百舌鳥古墳群の中間地点でこのような遺構が見つかった意義は大きい。

普及広報等について

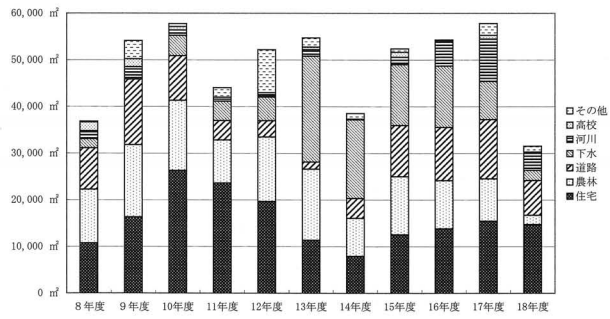
調査事務所で発掘調査・遺物整理報告書作成とともに大きな柱となるのが普及広報等である。そのうち資料展示は泉北考古資料館や府庁別館のロビー展示など限られた場所での展示となっている。それでも、泉北考古資料館では常設展以外に、速報展１回、企画展示２回、優品展５回の合計８回の展示を行った。府庁別館ロビー展示は１階と８階に展示ケースを設置しているが、それぞれ一階では２回と８階では３回の展示替えをおこなった。

大阪府内市町専門職員や一般の方にも開放している大阪府埋蔵文化財研究会は（財）大阪府文化財センターと共催で調査事務所講義室を使用して２回実施した。また、職員によるスライド検討会は年に10回実施している。発掘調査における現地説明会は３回実施し、延べ1,280名の参加者を得た。博物館実習は立命館大学の学生を受け入れて５日間おこなったほか、他施設の実習生を一日受け入れての講義も実施した。

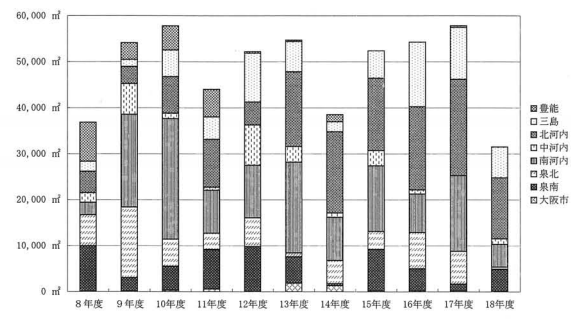
出土遺物の長期貸し出しは国立歴史民俗博物館や九州国立博物館を含め20施設に及ぶ。短期貸し出しは大阪府立弥生文化博物館や近つ飛鳥博物館、狭山池博物館の３館は勿論のこと滋賀県立安土城博物館など大阪府内外の博物館等に貸し出しをおこなった。出版物への写真掲載等では全国に向けの雑誌や新聞、専門書をはじめ、地域広報誌など幅広いメディアからの申し込みがあり、総数60件に及んだ。大阪府の調査が注目されている証でもあり、誇れる文化財を数多く保有している証拠でもある。

資料閲覧は80件に上った。閲覧者は海外からも

グラフ１　原因別調査面積の推移



グラフ２　地域別調査面積の推移



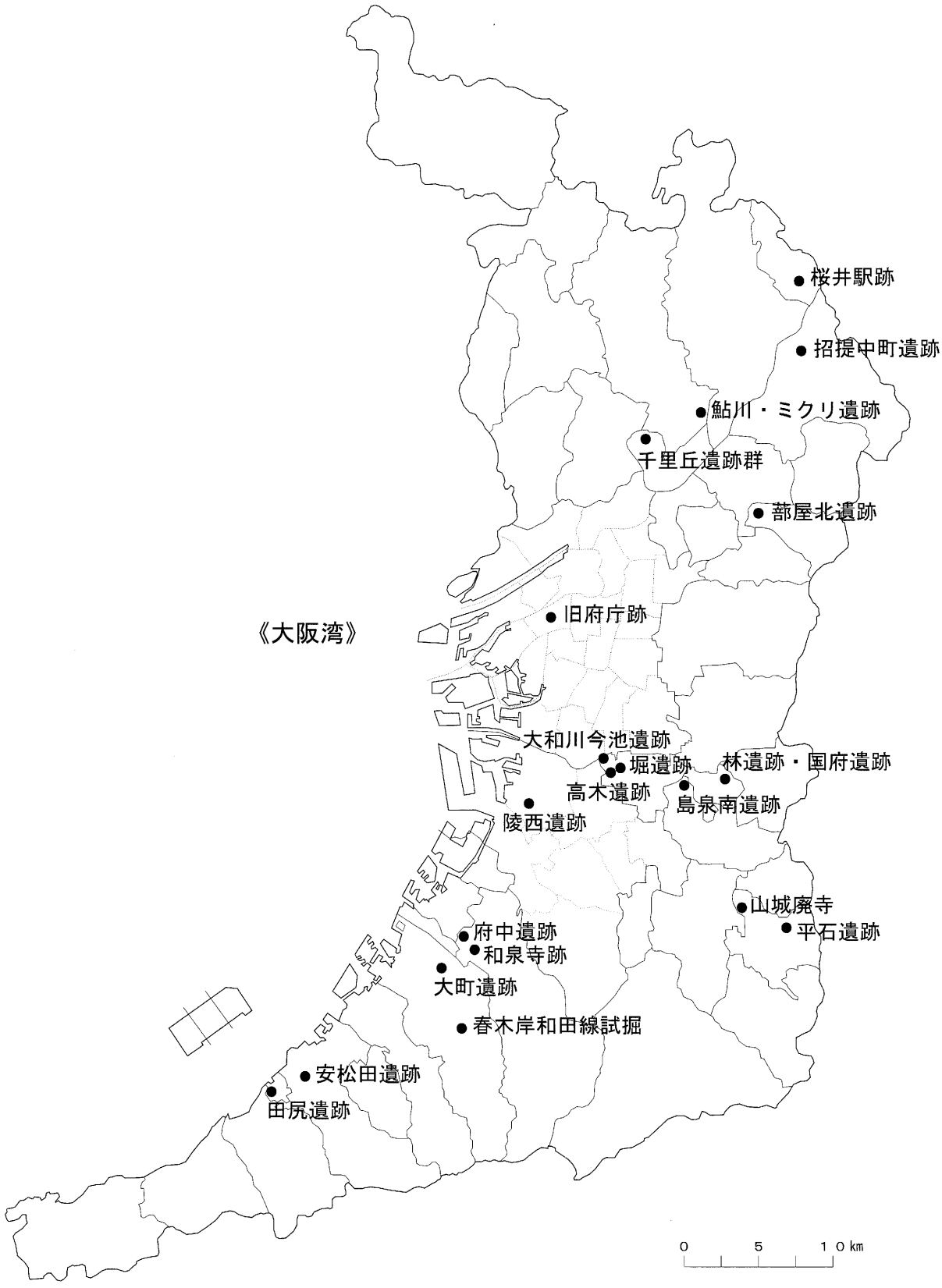
あって、内訳は韓国の研究所から６回、韓国の大学から２回、韓国と中国の博物館からそれぞれ1回ずつ閲覧者が来所している。国内からは京都大学をはじめ近畿の各大学や、国立歴史民俗博物館や栃木県立博物館など遠方からの閲覧もあった。閲覧の対象遺物は国重要文化財に指定された陶邑古窯跡群出土の須恵器や蔀屋北遺跡の韓式系土器、大阪府内出土の埴輪や墨書土器、木器、石器、瓦などあらゆる分野にわたっている。大阪府の出土資料は府内の７箇所に分散収蔵しているが、これからも多くの方に閲覧していただけるよう努力していきたい。

第３表　平成18年度調査箇所一覧表（１）

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
06001	桑原遺跡（その２）	茨木市桑原	発掘	17年度から継続	平成18年5月31日	3,883㎡	小川	河川室 ダム砂防課	安威川ダム建設事業
06002	蔀屋北遺跡Ｆ	四條畷市蔀屋・砂	発掘	17年度から継続	平成18年9月8日	2,000㎡	岡田	下水道課	寝屋川流域下水道 なわて水環境保全センター
06003	招提中町遺跡	枚方市東牧野町	発掘	17年度から継続	平成21年1月31日	11,056㎡	奥	住宅経営室 住宅整備課	府営枚方東牧野住宅建替え
06004	高木遺跡	松原市北新町	確認	平成18年4月20日	平成18年6月16日	967㎡	地村 関	交通道路室 街路課	都市計画道路堺港大堀線
06005	遺跡外	岸和田市大町	立会	平成18年4月14日	平成18年4月14日	—	西口 上林	住宅経営室 住宅整備課	府営岸和田大町住宅ガス管埋設
06006	崇禅寺遺跡	大阪市東淀川区	立会	平成18年4月20日	平成18年4月20日	—	辻本	住宅経営室 住宅管理課	府営崇禅寺住宅エレベーター設置工事
06007	大和川今池遺跡	松原市天美西７丁目	発掘	平成18年6月23日	平成18年8月28日	117㎡	杉本	下水道課	大和川流域下水道事業今池水みらいセンター内
06008	大町遺跡	岸和田市大町	確認	平成18年5月22日	平成18年5月25日	20㎡	上林	住宅経営室 住宅整備課	府営岸和田大町住宅内幹線道路
06009	林遺跡・国府遺跡	藤井寺市沢田３丁目・国府１丁目	発掘	平成18年6月13日	平成19年3月30日	20㎡	小山田	交通道路室 交通政策課	堺大和高田線交差点改良工事
06010	桜井駅跡	島本町桜井１丁目	発掘	平成18年3月13日 (17年度から継続)	平成19年3月27日	800㎡	一瀬	交通道路室 交通対策課	一般府道桜井駅線自歩道整備事業
06011	遺跡外（呉竹遺跡）	東大阪市下小阪４－２	試掘	平成18年7月3日	平成18年7月5日	50㎡	一瀬 小川	府警本部 施設課	大阪府布施警察署改築工事
06012	遺跡外	交野市私部西４丁目	試掘	平成18年9月21日	平成18年9月21日	7㎡	辻本	交通道路室 道路整備課	一般国道168号線（都市計画道路枚方大和高田線、天の川磐船線）道路改良工事
06013	堀遺跡（その３）	松原市天美南５丁目	発掘	平成18年6月16日	平成19年3月13日	1,788㎡	地村	交通道路室 街路課	都市計画道路堺港大堀線
06014	平石遺跡	河南町平石	発掘	平成19年6月19日	平成18年12月22日	1,950㎡	枡本	農政室 整備課	中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」
06015	遺跡外	藤井寺市春日丘１丁目 羽曳野市高鷲３丁目	試掘	平成18年4月13日	平成18年4月13日	40㎡	橋本	都市再生機構	春日丘団地建替事業
06016	安松田遺跡	泉佐野市東羽倉崎	発掘	平成18年7月3日	平成18年10月31日	1,520㎡	藤沢	住宅経営室住宅整備課	府営泉佐野羽倉崎住宅建替え
06017	府中遺跡	和泉市府中他	発掘	平成18年11月1日	平成19年3月23日	960㎡	関	交通道路室街路課	都市計画道路和泉中央線整備事業
06018	新金岡皿池遺跡	堺市東区新金岡町４丁２番	確認	平成18年4月7日	平成18年6月13日	20㎡	橋本	住宅供給公社	金岡東Ｈ団地建替え
06019	遺跡外	能勢町地黄	試掘	平成18年7月10日	平成18年7月11日	50㎡	辻本	交通道路室道路整備課	一般国道477東郷バイパス整備工事
06020	雁屋遺跡	四條畷市雁屋北町	立会	平成18年7月14日	平成18年7月14日	—	辻本	教育委員会施設課	四條畷高校多目的ホール埋設管布設工事
06021	向泉寺跡	堺市南三国丘町	立会	平成18年7月13日	平成18年7月13日	—	西口	教育委員会高校改革課	大阪府立三国丘高校増築電気設備工事
06022	遺跡外	堺市堺区遠里小野町～香ヶ町	試掘	平成18年6月9日	平成18年7月13日	250㎡	橋本	阪神高速道路㈱	大阪府道高速大和川線
06023	田尻遺跡	田尻町吉見	確認	平成18年7月25日	平成18年7月26日	18㎡	関	交通道路室交通政策課	一般府道新家田尻線歩道設置工事
06024	鮎川・ミクリ遺跡	高槻市西町他	発掘	平成18年8月2日	平成19年3月31日	1,580㎡	井西	交通道路室街路課	都市計画道路富田目垣線整備事業
06025	東郷・萱振遺跡	八尾市緑ヶ丘１丁目～光町２丁目	発掘	平成18年8月9日	平成18年8月9日	70㎡	一瀬	水道部東部水道事業所	配水管布設及び給水施設受託工事
06026	久宝寺遺跡	八尾市神武町	立会	平成18年7月31日	平成18年7月31日	—	一瀬	下水道課	寝屋川流域下水道中央南増補幹線
06027	遺跡外	茨木市西福井	試掘	平成18年7月27日	平成18年7月27日	8㎡	岩瀬	住宅整備課	府営茨木西福井住宅建替え
06028	遺跡外	吹田市千里古江台	試掘	平成18年7月28日	平成18年7月28日	20㎡	岩瀬	住宅整備課	府営千里古江台住宅建替え
06029	遺跡外	守口市寺方本町	試掘	平成18年7月31日	平成18年7月31日	20㎡	岩瀬	住宅整備課	府営守口寺方住宅建替え
06030	遺跡外	東大阪市島之内	試掘	平成18年8月3日	平成18年8月4日	120㎡	岩瀬	住宅整備課	府営東大阪島之内住宅建替え
06031	大町遺跡	岸和田市大町	発掘	平成18年8月28日	平成19年3月2日	1,826㎡	上林	住宅整備課	府営岸和田大町住宅建替え
06032	美園・上小阪遺跡	東大阪市上小阪４丁目	立会	平成18年8月29日	平成18年8月29日	—	一瀬	水道部東部水道事業所	配水管布設工事

第４表　平成18年度調査箇所一覧表（２）

調査番号	遺跡名	所在地	種別	調査開始	調査終了	調査面積	担当者	事業課	事業名
06033	上田部遺跡	高槻市上田部町	立会	平成18年9月15日	平成18年11月13日	—	一瀬	水道部北部水道事業所	配水管布設工事
06034	久宝寺遺跡	八尾市神武町	発掘	平成18年10月5日	平成19年3月30日	900㎡	一瀬	水道部東部水道事業所	配水管布設工事
06035	讃良郡条里遺跡	寝屋川市本町	確認	平成18年10月2日	平成18年10月3日	24㎡	辻本	教委施設課	寝屋川高校校舎建替え
06036	諏訪遺跡	大阪市城東区	立会	平成18年9月19日	平成18年9月19日	—	辻本	教委高校改革課	成城高校校舎建替え
06037	遺跡外	大阪市西区	試掘	平成18年10月16日	平成18年12月25日	120㎡	辻本	商工振興室ものづくり支援課	旧大阪府立産業技術研究所大阪本所土壌改良工事
06038	蔀屋北遺跡D・F管廊	四條畷市蔀屋・砂	発掘	平成18年11月13日	平成19年1月10日	64㎡	岡田	下水道課	なわて水みらいセンター建設
06039	遺跡外	岸和田市三ヶ山町	試掘	平成18年10月30日	平成18年10月30日	450㎡	藤沢	交通道路室道路整備課	一般府道春木岸和田線道路改良工事
06040	矢作・中田遺跡	八尾市高見町	立会	平成18年11月9日	平成18年12月19日	—	一瀬	交通道路室交通対策課	八尾道明寺線交通安全施設整備事業
06041	久宝寺遺跡	八尾市久宝寺	立会	平成18年8月22日	平成18年8月22日	—	一瀬	交通道路室交通対策課	大阪港八尾線交通安全施設整備事業
06042	久宝寺遺跡	八尾市久宝寺	発掘	平成18年11月10日	平成19年3月27日	85㎡	一瀬	公園課	久宝寺緑地東地区陸上競技場北側便所新築
06043	金岡遺跡	堺市金岡町	立会	平成18年11月8日	平成18年11月8日	—	西口	農政室整備課	金岡地区寺池改修工事
06044	山賀・萱振遺跡	八尾市新家町３丁目	立会	平成18年10月17日	平成18年10月20日	—	一瀬	下水道課	東部流域下水道管理情報通信
06045	中穂積遺跡	茨木市中穂積町	確認	平成18年11月14日	平成18年11月14日	1㎡	小川	総務部税務課	三島府民センター駐車場内自家発電機設置工事
06046	神宮寺遺跡	八尾市神宮寺３丁目	立会	平成18年11月16日	平成18年11月16日	—	小川	教委施設課	八尾翠翔高校内エレベーター設置工事
06047	九頭神廃寺	枚方市東牧野町	確認	平成18年11月20日	平成18年11月21日	40㎡	岩瀬	住宅経営室住宅企画課	府営枚方東牧野住宅建替え
06048	遺跡外	門真市千石西町	試掘	平成18年11月27日	平成18年11月28日	40㎡	岩瀬	住宅経営室住宅企画課	府営門真千石住宅建替え
06049	山城廃寺	河南町大字山城	確認	平成18年12月5日	平成18年12月7日	12㎡	小山田	農政室整備課	府営ため池整備事業（山城新池）
06050	雁屋遺跡	四條畷市雁屋北町	立会	平成18年11月14日	平成18年11月14日	—	辻本	教委施設課	四條畷高校電気埋管設置工事
06051	星田旭遺跡	交野市星田	確認	平成18年11月29日	平成18年12月1日	8㎡	辻本	農政室整備課	府営ため池整備事業（星田新池）
06052	陵西遺跡	堺市堺区中安井町3丁	発掘	平成18年11月27日	平成18年11月30日	15㎡	西口	税務室税政課	泉北府税事務所エレベーター設置工事
06053	出屋敷遺跡	枚方市山田池公園	立会	平成18年12月4日	平成16年12月4日	—	辻本	公園課	山田池公園公衆トイレ建設
06054	瓜生堂遺跡	東大阪市若江新町２丁目	立会	平成18年12月11日	平成19年1月10日	—	小川	河川室河川整備課	第二寝屋川堤防天端整備工事
06055	郡戸遺跡	羽曳野市郡戸	確認	平成18年12月13日	平成18年12月14日	8㎡	小山田	交通道路室道路整備課	美原太子線周辺整備工事
06056	車塚古墳群	交野市南野	立会	平成18年12月18日	平成18年12月18日	—	辻本	教委施設課	交野高校エレベーター設置工事
06057	和泉寺跡	和泉市府中町４丁目	確認	平成19年1月9日	平成19年2月16日	160㎡	藤沢	交通道路室街路課	都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業
06058	島泉南遺跡	羽曳野市高鷲	発掘	平成19年1月15日	平成19年2月8日	40㎡	小山田	交通道路室交通対策課	一般府道島泉伊賀線交通安全施設等整備事業
06059	高月寺跡	忠岡町高月南２丁目	確認	平成19年1月18日	平成19年1月18日	20㎡	西口	忠岡町	事務所新築工事
06060	貝塚寺内町遺跡	貝塚市西町～脇浜	立会	平成19年1月23日	平成19年3月19日	—	枡本	交通道路室交通対策課	（府）堺阪南線歩道設置工事
06061	千里丘遺跡	摂津市千里丘１丁目	発掘	平成19年2月5日	平成19年3月14日	170㎡	小川	交通道路室街路課	（都）千里丘三島線道路改良事業
06062	東郷遺跡	八尾市本町１丁目	立会	平成19年1月23日	平成19年2月1日	—	一瀬	交通道路室交通対策課	大阪港八尾線電線共同溝事業
06063	桜井駅跡・西国街道	三島郡島本町桜井１丁目	発掘	平成19年1月13日	平成19年3月27日	100㎡	一瀬	交通道路室交通対策課	（府）桜井駅線自歩道整備工事
06064	遺跡外	大阪市平野区長吉出戸１丁目	立会	平成19年2月8日	平成19年2月9日	—	阿部	住宅管理課	府営長吉住宅エレベーター設置工事
06065	雁屋遺跡	四條畷市雁屋北町	立会	平成19年2月5日	平成19年3月23日	—	辻本	教委施設課	四條畷高校環境整備工事
06066	中野北遺跡	富田林市粟ヶ池町	立会	平成19年2月22日	平成19年2月22日	—	小山田	交通道路室街路課	主要地方道美原太子線（粟ヶ池工区）道路整備工事
06067	安威城跡他	茨木市安威２丁目他	確認	平成19年3月8日	平成19年3月10日	100㎡	小川	交通道路室道路整備課	主要地方茨木亀岡線道路整備工事
06068	遺跡外	吹田市芝田町	試掘	平成19年3月28日	平成19年3月28日	8㎡	橋本	鉄道運輸機構	吹田（信）基盤整備事業


桜井駅跡
招提中町遺跡
鮎川・ミクリ遺跡
千里丘遺跡群
蔀屋北遺跡
旧府庁跡
《大阪湾》
大和川今池遺跡
堀遺跡
林遺跡・国府遺跡
高木遺跡
島泉南遺跡
陵西遺跡
山城廃寺
府中遺跡
平石遺跡
和泉寺跡
大町遺跡
春木岸和田線試掘
安松田遺跡
田尻遺跡
0 5 10km

第１図　調査位置図

蔀屋北遺跡（Ｆ調査区）（０６００２・０６０３８）

（１）四條畷市蔀屋・砂
（２）なわて水みらいセンター建設
（３）岡田　賢

はじめに

なわて水みらいセンター建設に伴う蔀屋北遺跡の調査は、水処理施設（Ａ・Ｂ・Ｃ調査区）、ポンプ棟・沈砂地棟（Ｄ調査区）、急速ろ過池（Ｅ調査区）の建設予定地が、平成13年度から順次行われ、弥生時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明している。特に古墳時代中・後期の遺構面は「河内の馬飼」との関連を想定させる遺構、遺物（馬埋納土坑、馬骨、木製輪鐙など）を中心に、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、井戸、土坑、溝などが谷状の地形を挟んで複数の遺構群を形成しており、これによって当該期の集落跡の構成要素や時期的な変遷が明らかになりつつある。

Ｆ調査区は、管理・送風機棟建設に伴うもので、Ｄ調査区とＥ調査区の中間、またＢ調査区とＣ調査区の西側にあたる。調査は平成17年９月に開始し、平成18年９月まで行われた。便宜的に調査区北半部分をＦ－１区、南半部分をＦ－２調査区、Ｄ調査区との菅廊部分をＦ－３区として行った。平成18年度中は古墳時代の遺構面を調査し、古墳時代中期および同後期の遺構面を確認した。

Ｆ調査区古墳時代遺構面の調査成果

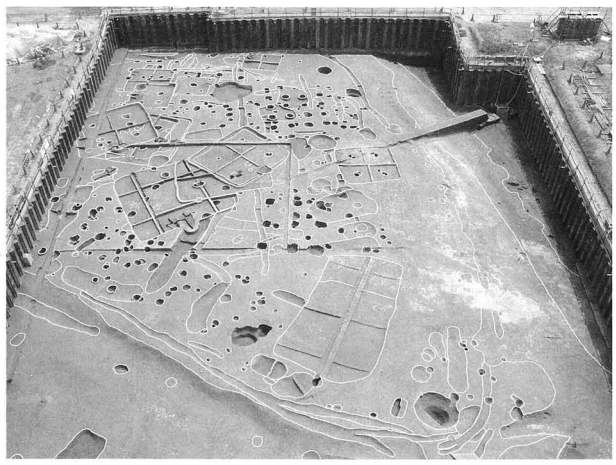
第13遺構面は古墳時代中・後期の遺構面である（第４図）。調査区を南東－北西方向の対角線上に微高地があり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などが多数検出された。その西側は大きく落ち込む谷地形となり、中期には南東－北西方向に直線的に伸びる溝（大溝）が開削されていた。これはＥ調査区で検出された「大溝」の延長部分で、北西に真直ぐのび、試掘Ｈ地区でもその一部が検出されている。

後期には大溝は埋没し、微高地とは比高差１～1.5ｍの浅い谷地形になる（谷１）。後期の間に徐々に谷１は埋没し７～８世紀には完全に埋没すると共に集落自体も廃絶する。

一方北側にはＤ調査区から続く浅い谷地形が中期～後期にかけて存在するが（谷２）、中期段階では平坦地で井戸や土坑が検出されたのに対し、後期には小規模ながら水田畦畔が検出された。集落間の狭小な低地で水田経営を行っていたことが明らかになった。

中期に属する主要遺構としては、竪穴住居跡10棟、掘立柱建物３棟以上、井戸５基などがある。竪穴住居跡は平面形が一辺４ｍ前後の隅丸方形で、東壁や北壁などに造り付け竈をもつ。主軸は東ないしは北にとるものが多い。掘立柱建物跡は今後ピットの再検討で増える可能性が高いが竪穴住居跡とはやや軸の向きが異なるようである。本調査区の井戸からは、船材転用枠は検出されていない。この他、鳥足紋を施した陶質土器が検出された土坑などがある。これら中期の遺構群は概ね中期前半頃（TK216型式期）から小数の竪穴住居跡などがみられるが、数的に多くなるのは中期後半～末（TK23～47型式期）であり、他の調査区と同様の傾向を示す。

後期に属する主要遺構としては、竪穴住居跡８等以上、掘立柱建物跡５棟以上、井戸１基などを検出している。竪穴住居跡は一辺が７ｍ前後と中期に比



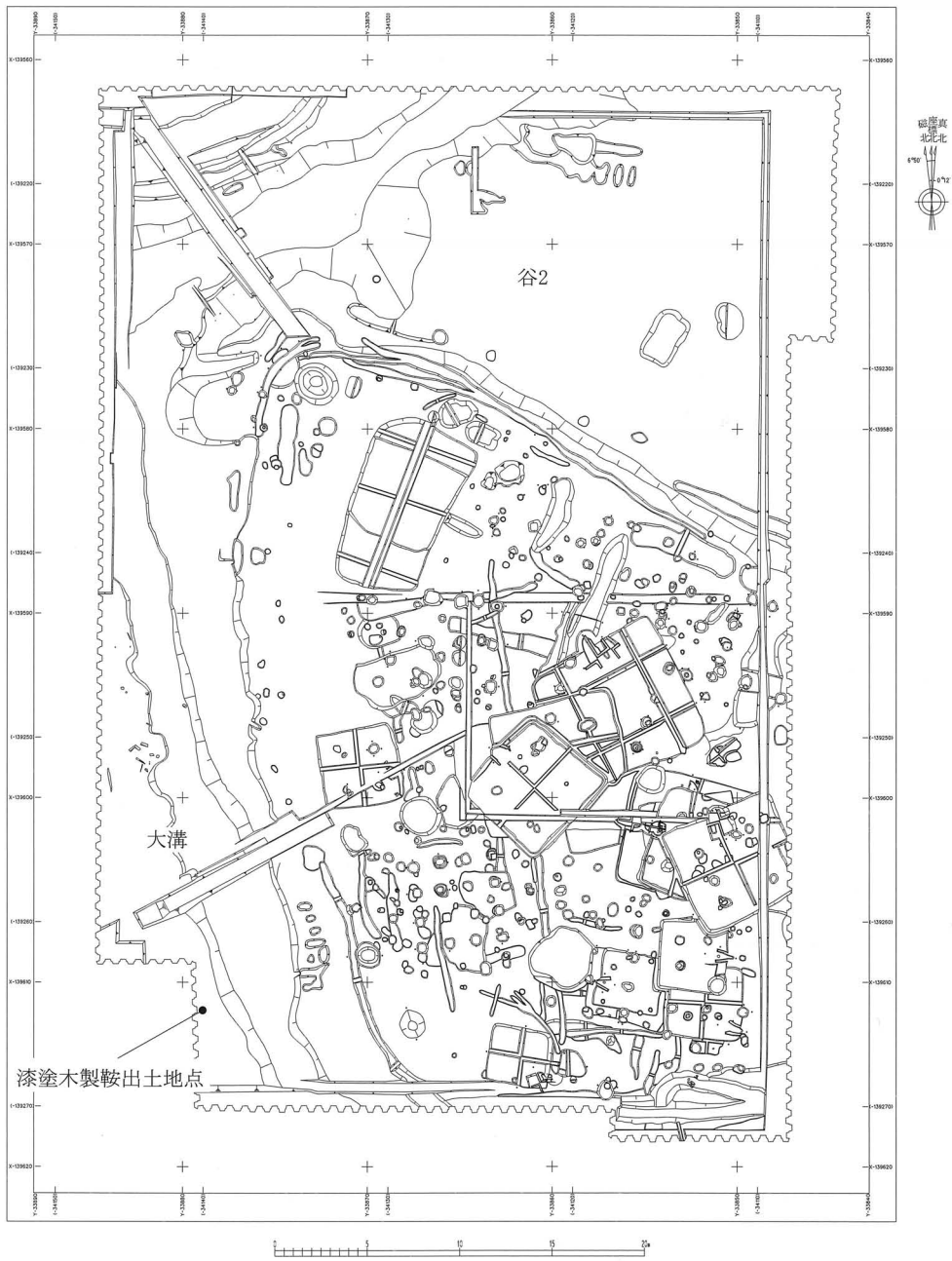
第２図　Ｆ調査区全景（北から）

第3図　漆塗木製鞍出土状況

べて大きくなり、軸をやや西に振っている。竪穴住居跡のほとんどは後期中葉～後半ないしは末頃（TK10～TK43型式期）に属し、掘立柱建物跡や井戸、先述した水田畦畔の所属時期についても同様である。Ｆ調査区は、Ｄ調査区と同様に、後期段階でも竪穴住居跡が主体の集落構成である点で、Ａ～Ｃ調査区やＥ調査区とは集落の様相が異なっているとみられる。

集落域の西側には中期段階に大溝が開削されており、須恵器、土師器のほか韓式系土器や陶質土器などの土器類をはじめ、刀子などの鉄器、農工具などの木製品、玉類、石製品、鹿角製品など多種多様な遺物が出土している。中でも大溝中層（TK208型式期）から出土した漆塗木製鞍は、過去出土している輪鐙、鑣轡とあわせ、主要な馬具が集落遺跡から出土した稀有な例として特筆すべきものである（第３図）。鞍は後輪で幅約47㎝、高さ約24㎝で、外面は金属製鞍の磯金具を模倣しており精巧な作りである。内側は突帯を削り出している。このタイプは近畿地方では類例が数例あり、居木の取付方法を復元する上で重要な例となろう。

平成13年度から行われてきた蔀屋北遺跡の調査は、Ｆ調査区をもって、今後予定されている小規模な調査をのぞいて主要な調査は終了したことになる。馬飼集団の集落の様相、朝鮮半島との関係などの本遺跡に関わる各要素は、新たな知見を加えながら明らかにされていくことになる。



第４図　蔀屋北遺跡Ｆ調査区全体図

招提中町遺跡（０５００７・０６００３）

（１）枚方市東牧野町地内
（２）府営枚方牧野東住宅建替え
（３）横田　明・奥　和之

はじめに

今回の調査は、平成17・18年度の２箇年度にわたり実施した。調査地区は、遺跡範囲の西側、中央より西にあたり、調査面積は、約11,056㎡を測る。検出した遺構の時期は、古墳時代前期、平安時代、中世のほぼ３時期に分かれる。

古墳時代前期の遺構　古墳時代前期と推定される主な遺構は、竪穴住居跡、土坑、焼土坑、溝などである。

検出した竪穴住居跡は８棟で、これらは規模、形状等においてバラェティに富んでいる。住居跡は、平面形で隅丸方形に近い形を呈し、特に住居１と住居３の２棟は、多くのものが一辺５ｍ前後であるのに対し、２棟の住居跡は一辺が7.5ｍ前後を測り、ずば抜けて規模が大きい。住居跡外側には幅３ｍ前後離れ、住居を取り巻くように方形に近い溝を巡らせている。出土した遺物は、普通の住居から出土したものとほとんど変わりがなく、遺物からは階層差は認められない。

また、住居１の壁溝には、平面・断面観察の結果、幅約20㎝、厚さ２㎝前後の板状の痕跡が認められた。このことから、住居は平地式に近く、壁溝内に垂直に板を貼った後に周庭帯に土砂を盛り、住居の壁を作っていたものと推定している。

平安時代の遺構　平安時代の主な遺構は建物で、２棟検出した。建物と建物の間は約110ｍと離れて検出したことから、調査区内では散村という風景を醸し出している。

その中で調査地区の北西側で検出した建物２は、２間（約3.3ｍ）×２間（約3.3ｍ）の総柱建物で、東側に庇が付く。柱穴は隅丸方形に近い。建物に庇が付くということなどから、倉庫というよりも住居に使用されたものと考えている。柱穴内からは、黒色土器の小片が出土している。

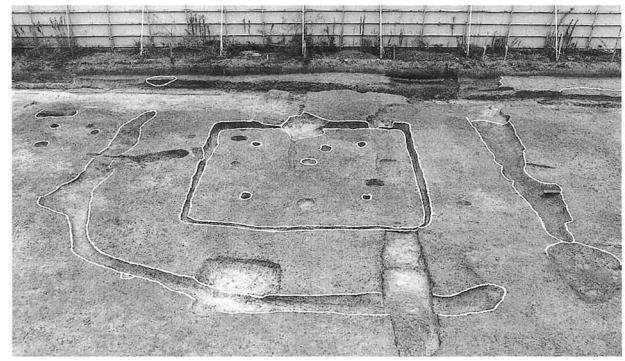
中世の遺構　中世の遺構は、建物１棟、柱穴群、土坑などである。その中で調査地区の東北側で検出した建物１は、２間（約4.0ｍ）×３間（約5.0ｍ）を測る。周辺には、中世の遺構が検出されなかったことや、建物の規模が小さいことから、住居ではなく作業小屋に近いものと考えている。

まとめ

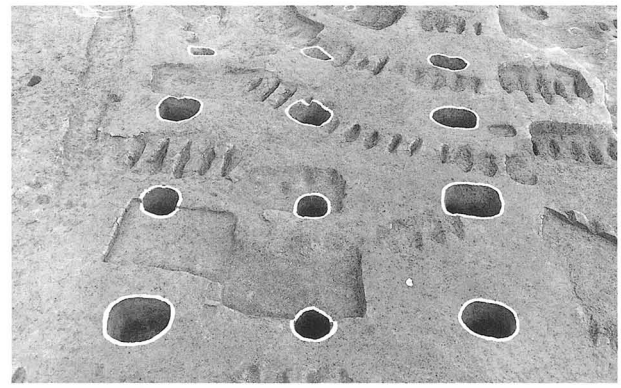
これまで調査を行った招提中町遺跡の遺構の分布状況から、今回の調査区での遺構の密度は全体的に薄く、点在している。その中で古墳時代前期の遺構は、最も多く、北東に行くに従い少なくなる傾向を示している。また、遺構密度が少なくなる地点周辺に大型住居が築かれている傾向が認められる。

平成10・11年度に調査を行った、調査地区の南側では前述した時期の遺構と共に、弥生時代中期、飛鳥時代の遺構が検出されている。しかし、今回の調査では、その時代の遺構が全く検出されず、これらの時期の遺構はこの地区までは及んでいないことが確認された。

第５図　住居１（西より）



第６図　住居２（北より）



第７図　建物２（西より）

高木（たかぎ）遺跡（０６００４）

（１）松原市北新町４丁目地内他
（２）都市計画道路堺港大堀線整備事業
（３）地村邦夫・関　真一

本調査は、都市計画道路堺港大堀線整備事業に伴う確認調査である。道路新設予定区域に11ケ所のトレンチを設定し、調査を実施した。

調査の結果

煩雑になるのを避けるため、大きく西部（１、２トレンチ）、中央部（３～５トレンチ）、東部（６～11トレンチ）に分けて概略を述べる。

１、２トレンチ

１、２トレンチは流川左岸に設定した調査区である。現地表面のレベルは１トレンチがT.P.＋11.6ｍ前後、２トレンチがT.P.＋12.4～12.5ｍである。２トレンチの方が約１ｍ高いが、調査の結果すべて近年の盛土であることが判明した。

両トレンチともT.P. ＋11.1ｍ前後で中世もしくはそれ以前の自然河川であると考えられる砂礫層を検出した。砂礫層の厚さは、薄いところで0.6ｍ、厚いところでは１ｍ以上ある。トレンチの幅が狭いため、流れの方向は不明だが、河川の肩が検出されていないことや地山面を削りこむ河川の痕跡から考えると、蛇行しながらほぼ東から西に流れていた可能性が考えられる。

３～５トレンチ

３～５トレンチは流川右岸に設定した調査区である。現地表面のレベルは３、４トレンチがT.P.＋12.2ｍ、５トレンチがT.P.＋12.5ｍである。

遺構面は２面確認した。第１面は灰黄褐色土上面である。検出レベルはT.P.＋11.9～12.0ｍである。本面では幅0.2～0.3ｍ、深さ0.2ｍ程度の小規模な溝を多く検出した。溝の方向は南北方向のものが多く、1.8～2.0ｍ間隔で並んでいる部分も確認した。おそらく耕作に伴う溝と考えられる。時期は断定できないものの、中世後半～近世と考えられる。第２面は地山面である褐灰色砂質土上面である。本面のレベルは３、４トレンチでT.P.＋11.9～12.0ｍ、５トレンチ東端でT.P.＋11.5ｍであり、東へ行くほど徐々に低くなることが明らかになった。本面で検出した遺構は溝、ピット、土坑などである。トレンチの幅が狭いため、ピットの並びは確認できなかったが、集落が営まれていた可能性が高い。これらの遺構の多くは奈良時代のものと考えられる。

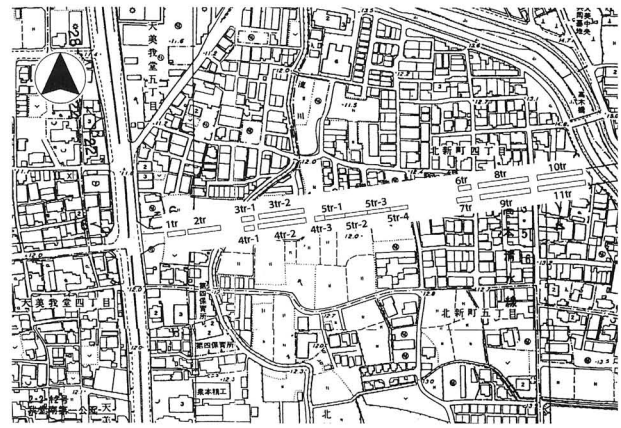
６～11トレンチ

西除川左岸に設定した調査区である。現地表面のレベルは６、７トレンチでT.P.＋12.9～13.0ｍ、10、11トレンチでT.P.＋13.4～13.7ｍと西除川に向かい次第に高くなる。

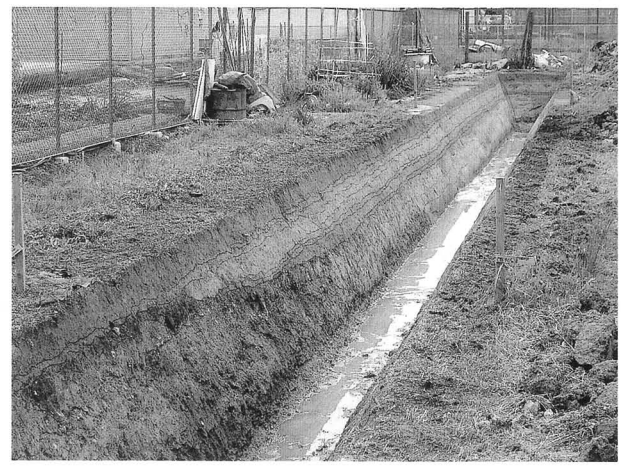
６～11トレンチの間は西除川の旧流路もしくは氾濫原にあたる。特に10、11トレンチは砂礫層の厚い堆積や砂礫とシルトの互層が確認された。一方、西除川からやや離れた６～９トレンチではT.P.＋12.2ｍ付近で近世の砂礫層に覆われた灰色粘土層を確認した。この灰色粘土層上面の一部では、畦畔や畝かと思われる凹凸が確認されており、中世の遺構面である可能性が考えられた。

まとめ

調査の結果、１～９トレンチで遺構、遺物を検出した。特に３～５トレンチ周辺は西除川、流川の影響が少ない安定した区域であり、奈良時代の集落が営まれていた可能性が高い。



第８図　調査区位置図（Ｓ＝1/7,500）



第９図　３トレンチ（西から）

大和川今池遺跡（０６００７）

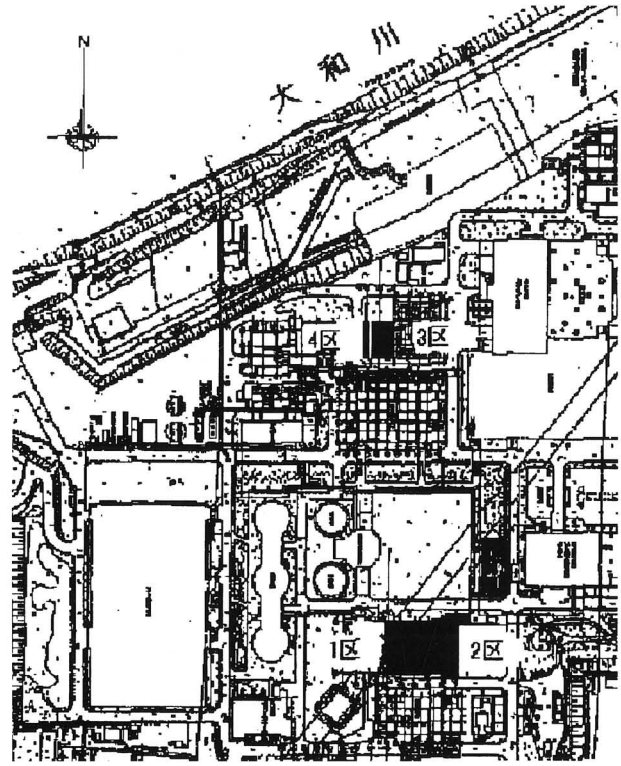
（１）松原市天美西７丁目地内
（２）今池水みらいセンター内建設工事（焼却炉棟）
（３）杉本清美

大和川今池遺跡は、松原市天美西、堺市北区常磐町、大阪市住吉区庭井に跨って所在する遺跡である。昭和52年に今池処理場（現今池水みらいセンター）の建設工事に先立つ試掘調査で確認され、以降今池処理場内の建設工事や大和川高水敷整備事業などに伴い発掘調査が実施されている。これまでの調査で、奈良時代の「難波宮」朱雀大路の南延伸上となる「難波大道」が確認されたほか、古墳時代の集落跡や生産遺跡がみつかるなど、旧石器時代から連綿と続く遺跡であることが明らかとなっている。

今回の調査は、今池水みらいセンター内の施設建設工事で、焼却炉棟建設に伴う発掘調査である。平成17年度に焼却炉棟の東部（３区）について調査を実施したが、西側に既存の道路があり、埋管が布設されていることから、調査区周縁に矢板を打設した後、調査区（４区）を設置し調査を実施することとなった。調査面積は、118㎡である。

４区は、昭和54年度に発掘調査を実施した第５調査区の北側に位置し、平成８年度に実施した第２地区の東側に近接する。現地盤（T.P.＋13.0ｍ）から層厚４ｍの盛土及び旧耕土を機械で除去した後、人力で遺構面の確認に努めた。第１面では、南北方向のスキ溝を検出した。包含層からは瓦質羽釜や東播系片口鉢、瓦器椀、瓦片などが出土した。第２面では、耕作面が数層重なっており、南北方向のスキ溝と畦畔が確認できた。第３面では、昨年度実施の３区から伸びる東西方向の溝や浅い不定形土坑がみられた。土坑内から、須恵器杯身、杯蓋、高杯、甕や土師器高坏、甕体部片などの細片が出土した。さらに、下層では平成８年度に実施した第２地区に続くとみられる旧河川跡を確認することができた。黄褐色砂および細砂が約１ｍの厚さで堆積していた。遺物は出土しなかった。

今回の調査では、連綿と重なる耕作土跡、不定形土坑と溝などのほか、時期は不確定であるが、旧河川跡を確認することができた。比較的遺構が希薄な地帯であったが、近接した地点で古墳時代の集落域や中世の瓦が土坑内から大量に出土するなどの成果がみられることから、大和川今池遺跡内における歴史的・地理的環境を復元する上での資料になるものと思われる。



第10図　大和川今池遺跡調査区位置図

第11図　大和川今池遺跡　３・４区全景

林遺跡・国府遺跡（０６００９）

（１）藤井寺市沢田３丁目・国府１丁目
（２）主要地方道堺大和高田線交差点改良工事
（３）小山田宏一

はじめに

平成18年度は、暫定歩道・車道の設置にともない移設される水道・下水道の引き込み線部の調査を実施した。調査区は６箇所、いずれも小面積で、１～５区が林遺跡、調査６区が国府遺跡になる。

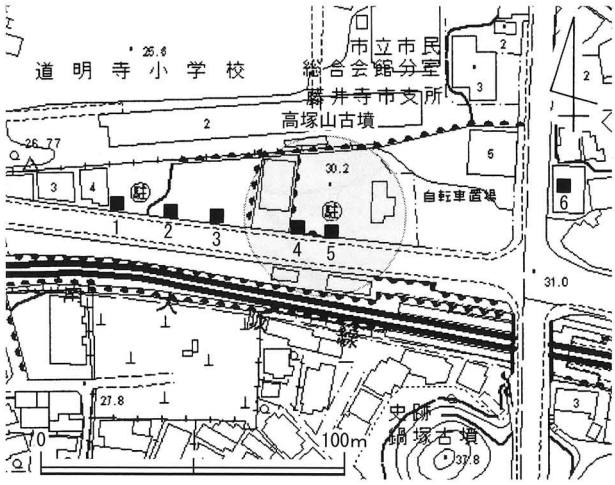
調査成果

遺構は１・３区で検出した。１区は旧耕土を除去し地山面で溝、柱穴、土坑を検出した。性格や年代は不明。３区は地山面で、埴輪片を敷き床をつくる７世紀の埋葬施設を検出した。全長（推定）2.6ｍ、幅0.6ｍ。埴輪は５世紀前葉の円筒埴輪だが、施設の年代は頭部付近と推定される南端に副葬されていた須恵器（高杯と脚台を打ち欠く長頸壺）の型式から７世紀と判断した。

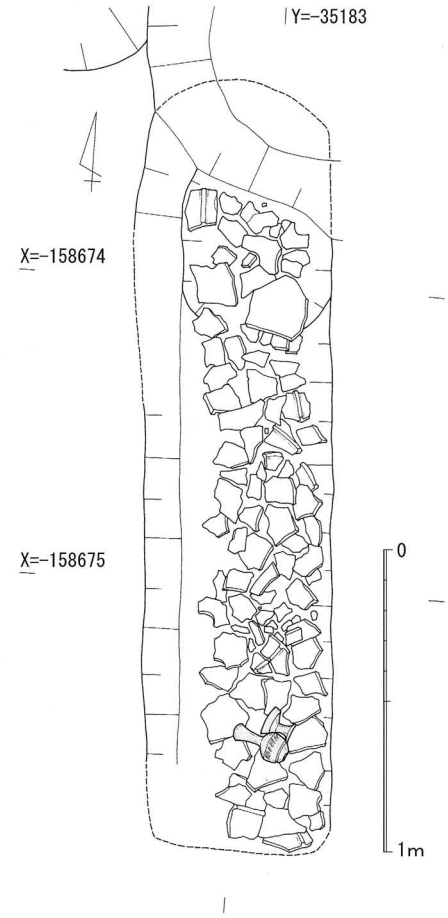
３区から４・５区にかけては、道路盛土下に粘土混じりの砂礫土の高まりを確認した。３区と４区の比高は約２ｍ。３区が1950年代後半に堺大和高田線敷設工事で削平された高塚山古墳の西裾付近にあたり、東に続く砂礫土の高まりは古墳の基底部になろう。調査区が狭く砂礫土が地山なのか盛土なのか結論は出せなかったが、５区東自転車置場（現市営駐輪場）の調査で地山の標高が約28ｍを測ることから、頂部標高が約30ｍに達する砂礫土は基底部の盛土と判断される。

まとめ

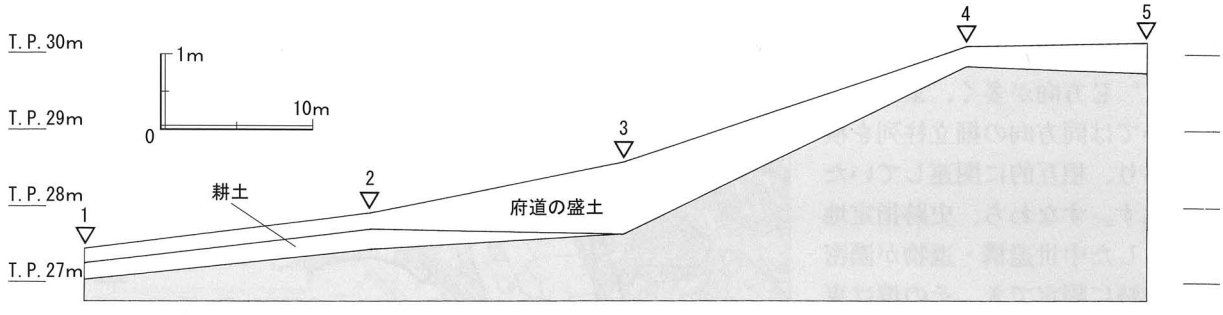
高塚山古墳の基底部を確認した。本線の調査では墳形・規模等が確定できるものと期待する。



第12図　調査地点位置図



第13図　埴輪を敷いた埋葬施設



第14図　調査地点の地形断面図

桜井駅跡（０５０２５・０６０１０）

（１）島本町桜井１丁目地内
（２）一般府道桜井駅跡線自歩道・主要地方道西京高槻線歩道整備工事
（３）一瀬和夫・岡田　賢

大阪府三島郡島本町桜井１丁目に所在する桜井駅跡・楠木正成伝承地に南接してＪＲ線の新駅が設置される。それに伴い、阪急京都線水無瀬駅と連絡する一般府道の自歩道整備工事計画が持ち上がった。これを受けて本府教育委員会は平成17年度上半期に試掘調査を実施し、遺跡が東側に拡がることが判明し、現在、その発掘調査を行っている（東西区）。

これに併行して平成18年度下半期には、都市計画道路桜井駅跡線（駅前広場）整備用地に東接して南北にはしる西国街道でもある主要地方道の歩道整備工事予定地の西側拡幅部も調査した（南北区）。

東西区では、東端で弥生第Ⅱ様式の壷形土器を含む溝や周溝状の遺構、下で黒灰色粘質シルトの縄文土器包含層を確認した。中央から東端にかけて、弥生第Ⅲ・Ⅳ様式の土坑・落ち込み・溝を、さらに、庄内・布留期の壷・甕形土器を含んだ溝や整地層など。そして、同軸の５世紀後半から６世紀前半の炭化物層を含む溝や掘立柱建物も検出した。

さて、８世紀以降の古代は重層的な耕作層が東西区で見られ、古代の土器は主に西半に分布する。酸化面をもつ多少の起伏がある８世紀後半の面から上層は水平に積み重なる一連の堆積があり、それらは13～15世紀を中心としている。このことから、中世期に至って安定した耕作面が広く獲得されたことが分かる。

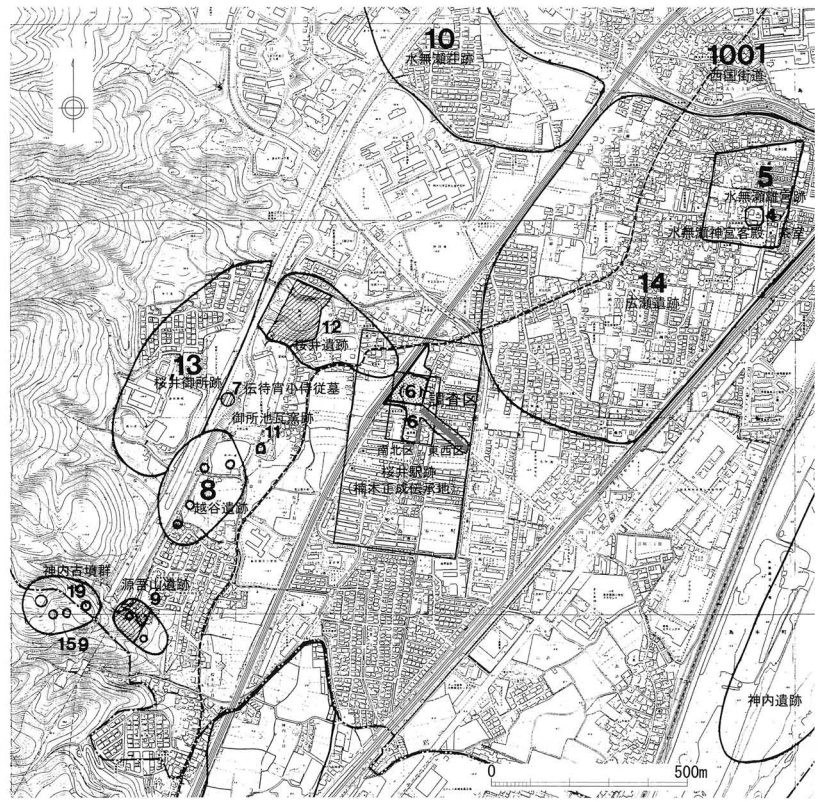
東西区からすれば西端に位置する南北区は、下部が中世面に削平されるが、当該期で２面が確認でき、南北柱列と東西溝を検出した。北側の島本町教育委員会が検出した中世屋敷地が広がることが判明した。

こうした所見のうち、特に注目できるのは、桜井駅跡関連の遺構である。東西区全域に及ぶ東西南北の小溝はＮ７°Ｅ方向が多く、また南北区においては同方向の掘立柱列を検出しており、相互的に関連していたことを示す。すなわち、史跡指定地を中心にした中世遺構・遺物が濃密な場所が特に限定でき、その境は東西区の西端あたりとなる。また、南北区はT.P.10.5ｍ前後が中世主要面となり、遺物出土の集中とともに、掘立柱建物・石組み井戸などの屋敷地に伴うであろう遺構が分布する。これに対して、東側がT.P.10.1ｍへと一段下がった平坦面となっており、終始、小溝を伴った耕作地となる。

この境を屋敷地東辺として考え、北側を見ると、遺構面が平成18年度の島本町教育委員会の調査で史跡指定地をこえるところで下がることが分かり、これを北限とすることができる。南側は島本町立歴史文化資料館用地から現況周囲が一段下がることから南限となり、南北方向に180×120ｍの範囲の屋敷地が想定できる。

一方、東西区で検出した小溝群を伴った整地層は調査区東端まで途切れないことから、史跡桜井駅跡から東方にある南北に流れる高川までが耕作地の最小区画となる。川はこれより北側250ｍ程で大きく屈曲することから、これが生産域をも囲む区画の北東隅にあたるとすれば、550×310ｍの南北方向の長方形の外域区画が存在することになる。

そうした区画の存在が、今回の調査では考えられるようになった。



第15図　桜井駅跡調査区と周辺の遺跡

堀（ほり）遺跡（０６０１３）

（１）松原市天美南５丁目地内
（２）都市計画道路堺港大堀線整備事業
（３）地村邦夫

はじめに

昨年度に引き続き、都市計画道路堺港大堀線整備事業に伴う調査を実施した。調査区は二ケ所あり、西側をＡ区、東側をＢ区とした。

Ａ区の調査

第１面　本面は近世の遺構面である。レベルはT.P.＋13.2ｍである。自然河川、溝、土坑を検出した。自然河川は本面から第３面まで確認されており、各遺構面で土手状の高まりも検出していることから、一時的な流れではなく、中世から近世に至る西除川の旧流路のひとつと考えられる。

第２面　本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.＋12.8ｍである。自然河川を検出した。

第３面　本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.＋12.6ｍである。自然河川、井戸、溝を検出した。井戸からは瓦器椀や土師器羽釜が出土した。

第４面　本面は奈良時代～平安時代の遺構面である。レベルはT.P.＋12.０ｍである。畦畔と鋤溝、足跡を検出した。

Ｂ区の調査

第１面　本面は近世の遺構面である。レベルはT.P.＋13.1ｍである。井戸、溝、土坑を検出した。溝には幅２～３ｍ程度の大規模なものが３条あった。近世の用水路と考えられる。

第２面　本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.＋12.7～12.9ｍである。遺構はほとんど検出されなかったが、おそらく水田面と考えられる。

第３面　本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.＋12.6～12.8ｍである。畦畔、鋤溝、足跡を検出した。鋤溝はすべて南北方向であった。

第４面　本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.＋12.3～12.6ｍである。畦畔、鋤溝、足跡を検出した。鋤溝はすべて南北方向であった。

第５面　本面は中世の遺構面である。レベルはT.P.＋12.2～12.5ｍである。畦畔、鋤溝、足跡を検出した。本面のベース土は粗砂と礫を多く含む黒色土であり、客土と考えられる。中世における当地の本格的な再開発を示すものと考えられる。

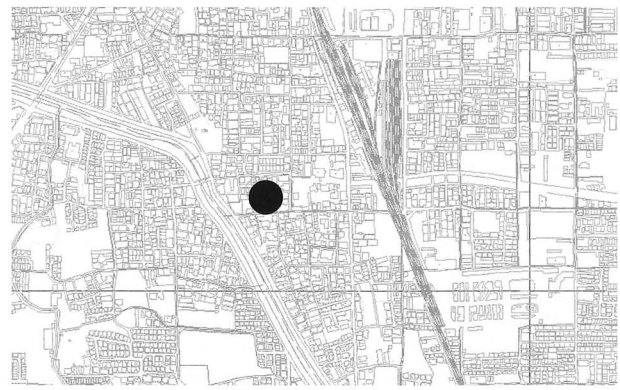
第６面　本面は奈良時代後半～平安時代前期の遺構面である。レベルはT.P.＋11.9～12.1ｍである。井戸、ピット、畦畔、溝を検出した。井戸は方形に木枠が組まれたもので、埋土から奈良時代の土器が多く出土した他、堀方から神功開寶１点が出土した。井戸、ピットはいずれも溝に切られており、平安時代前期に調査区域全面が水田にされたようだ。

第７面　本面は奈良時代の遺構面である。レベルはT.P.＋11.8～12.0ｍである。ピット、畦畔を検出した。遺構の分布から調査区西半部が水田域、東半部が集落域であったと考えられる。ピットは平面形が方形で、一辺0.5ｍ前後のものが多いが、中には一辺１ｍ前後の大形のものもあった。

第８面　本面は奈良時代の遺構面である。レベルはT.P.＋11.6～11.8ｍである。溝、道路状遺構、足跡を検出した。

まとめ

今年度の調査では、奈良時代に集落と水田が営まれたこと、中世に再度水田が開発されたこと、近世末に集落域が本地周辺に広がったことを確認することができた。



第16図　調査区位置図（Ｓ＝1/15,000）

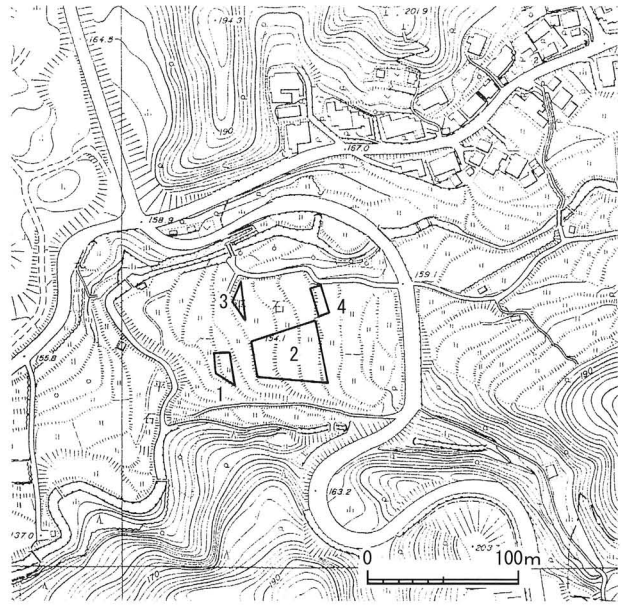
第17図　Ｂ区〔北半部〕第８面（東から）

平石（ひらいし）遺跡（０６０１４）

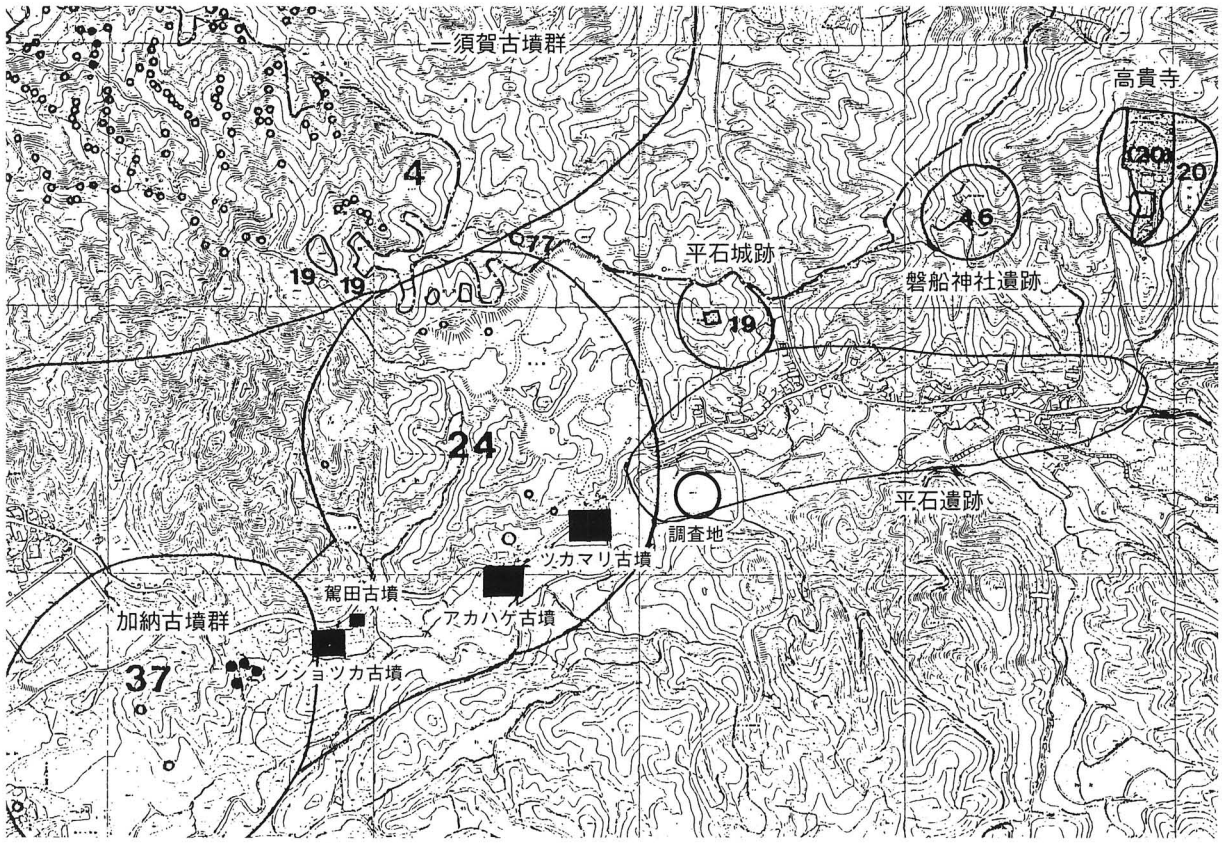
（１）河南町平石
（２）中山間地域総合整備事業「南河内こごせ地区」
（３）枡本　哲

今回は、標題の事業に伴う最後の調査である。調査区は平石遺跡の西限に接し、ここで平石谷は大きく蛇行して、対岸はツカマリ古墳が築かれる尾根に面する。昭和50年代半ばのグリーンロード敷設の際に東側の山塊から断ち切られて、独立したような尾根先端の平端部をなしているが、本来は東側の「菖蒲谷」山の西尾根の斜面地にあたる。事業により削り取られる予定の部分を中心に４箇所の調査区を設けた。いずれの地点でも現在の棚田の基礎となる旧い造成に伴う堆積土を確認し、それらの土層より計１箱分の縄文･弥生・飛鳥奈良・鎌倉・近世などの摩滅した土器片や石器（石鏃・石匙など）・サヌカイト片が出土した。遺構としては焼土を含む小土坑があるが、一部にサヌカイト片を含んでいた以外出土遺物はない。

昨年度の調査結果（『平石遺跡発掘調査概要・Ⅰ』）にも触れたように、14世紀中頃の北朝側の焼き討ち以後、平石地区は活発に棚田造成が行われて現在の景観が整えられた。平石谷左岸一帯が標高200ｍ附近まで耕地拡張の対象となったのもそれ以降のことと見られる。しかし近代に至っては重機を使用してさらに広く平らかな棚田が築かれたため、出土遺物より推測される時期の遺構はその際の削平によってほとんど消滅し去ったようである。



第18図　調査区配置図



第19図　平石谷遺跡分布図

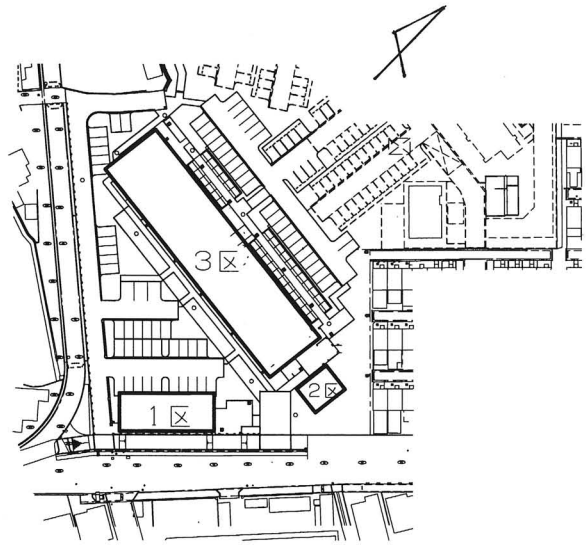
安松田遺跡（０６０１６）

（１）泉佐野市東羽倉崎
（２）府営泉佐野羽倉崎住宅建替え
（３）藤澤眞依

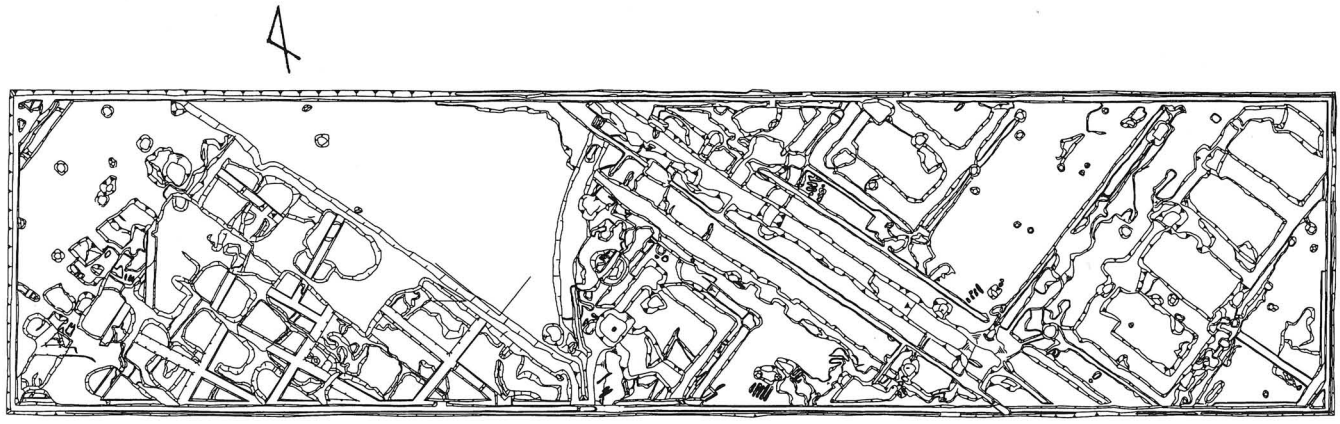
住宅経営室住宅整備課からの依頼により平成18年７月３日～10月31日に発掘調査を行った。調査対象範囲は東西120ｍ、南北延長約80ｍの範囲である。１区機械室等200㎡・２区集会所80㎡・３区住棟部分1,240㎡、合計1,520㎡を調査した。

基本層序は、住宅建設時盛土0.3ｍ、旧耕作土0.15ｍ、床土0.05ｍで地山の黄色粘土となる。１区では黄色粘土上面で黒褐色粘土を埋土とする溝を１条検出した。２区では旧水田地割による段を検出した。３区では、２区と同様の旧水田の段と土坑を30数基検出した。埋土の状況からは掘削後しばらく放置されたり、複数同時に埋められたりしていることが判る。土坑墓等の可能性は低く、粘土採掘土坑と考えられる。土坑は水田地割を意識しており、旧水田形成後の掘削と考えられるため、旧水田の開始時期が何時になるかで土坑の掘削時期も大きく動くものと考えられる。遺物は旧石器時代と考えられる剥片１点と数片の土師器や瓦器片と近世から現代までの陶磁器片が少数出土しただけである。遺物総量はコンテナに１箱である。

第20図　調査地位置図



第21図　調査区配置図



第22図　３区遺構平面図

府中遺跡（０６０１７）

（１）和泉市肥子町・府中町
（２）都市計画道路和泉中央線整備事業
（３）関　真一

はじめに

今回の調査地は、JR阪和線和泉府中駅の南側に位置し、線路をはさんだ東西両側である。東側をⅠ区、西側をⅡ区と呼称し、Ⅰ区から調査を実施した。調査面積は計960㎡である。

これまで当調査地周辺で実施された発掘調査では、縄文時代後期の遺物や弥生時代中期の方形周溝墓、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての河川などが確認されている。

調査の成果

Ⅰ区は現代の盛土を除去すると、近現代の耕作土が現れる。耕作土中からは須恵器や瓦器の小破片が少量出土している。これを除去すると調査区一面を覆う砂礫層が認められた。砂礫層は一度に堆積したものではなく、複数回に及ぶ流水により形成されたと観察できる。この砂礫層中から、調査区北西部でほぼ完形の小型丸底壺が１点出土している。

掘削を進めると、調査区東側を南北方向に流れる自然河川が確認され、それを埋没させた土砂の影響により、調査区内では東側が高く西側が低い様相を呈した。各層は主に砂質シルトで形成され、下層になると砂礫の割合が多くなる。この砂質シルトを掘削する中で、炭集積や土器溜りを検出した。

土器溜りは調査区南西部と南東部で認められた。出土した土器は主に縄文時代中期末の波状口縁の深鉢で複数固体出土している。最も残りのよい個体は、口縁部の約半分が残存し、同一固体と思われる胴部や底部片も多数出土している。また、南東部の土器溜りからは握り拳程度の焼土塊も土器片と共に多く出土した。この焼土塊の胎土は、共に出土した土器の胎土より精良である。

他に、擦石などの石器類も複数出土している。

一方、これら遺物が出土した層では炭集積が検出された。Ⅰ区の西部（炭集積１）と北西部（炭集積２）の２箇所に存在した。炭集積１は炭化した木材が良好な状態で検出できた。その周囲に炭が散布していた。いずれも、縄文時代中期末ごろの遺構と考える。

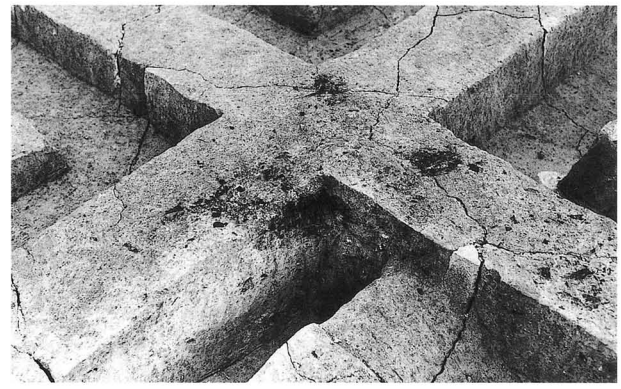
線路西側のⅡ区では、現代の盛土層の下に粘性のシルトが堆積し、そこから須恵器や土師器が少量出土している。それを除去すると、Ⅰ区と同様に砂礫層を認めることができる。ここでも複数回に及ぶ流水により砂礫層が形成されたことを観察できる。

この砂礫層中に弥生時代後期から古墳時代前期の土器が多く含まれており、小型丸底壺・甕・器台などが出土している。いずれも土器は調査区北東端から出土しており、Ⅰ区北西端からⅡ区北東端にかけて当該期の遺物を含んだ流路の存在が想定される。また、砂礫の様相から南北方向の流路と考えられる。

Ⅱ区では、砂礫層以下では遺物を確認できず、部分的に炭が集積する様相を看取できた。

まとめ

Ⅰ区において縄文時代中期末の土器が一定量出土したことは、和泉地域における縄文時代の様相を解明する貴重な資料と考えられる。また、石器類の出土も考えると、調査地周辺で生活が営まれた可能性が高く、住居跡など遺構の存在が予想される。今回の調査では、遺構を検出できなかったが、周辺での今後の調査成果が期待される。



第23図　炭集積１検出状況

第24図　縄文土器出土状況

田尻（たじり）遺跡（０６０２３）

（１）泉南郡田尻町吉見地内
（２）一般府道新家田尻線歩道設置工事
（３）関　真一

歩道設置工事が実施されることとなり、工事対象地内に２ｍ×２ｍのトレンチを６ヶ所設定し、遺構や遺物を確認する調査を行った。

基本層序は、上層より現代の盛土、砂礫～シルト層、黄褐色の粘質シルト層（地山）である。

今回の調査では、３ヶ所（No.３、No.４、No.６地点）で遺物が出土している。遺物は全て細片で古代の須恵器や時期は不明であるが土師器片が認められる。

遺構は、調査区の面積が狭いこともあり明確に見出すことはできなかった。ただ、No.３地点で土坑の一部を検出することができた。この土坑は、古代の須恵器を含むシルト層上面からほぼ直角に掘削され、地山である黄褐色粘質シルト層中で底が検出されている。深さは約0.8ｍである。

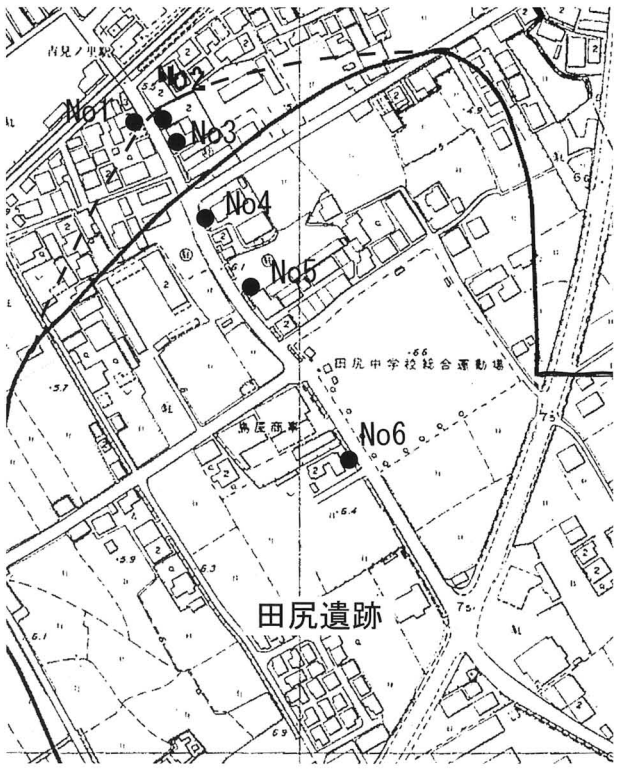
このような遺構は、田尻町教育委員会による周辺の調査でも検出されており、いわゆる近世の粘土採掘坑と考えられている。今回の調査でも遺構の年代を知りうる遺物は出土しなかった。

さて、今回の調査により地山と考える土層のレベルを調査地点ごとにつないでいくと、高低差の存在が明らかとなった。

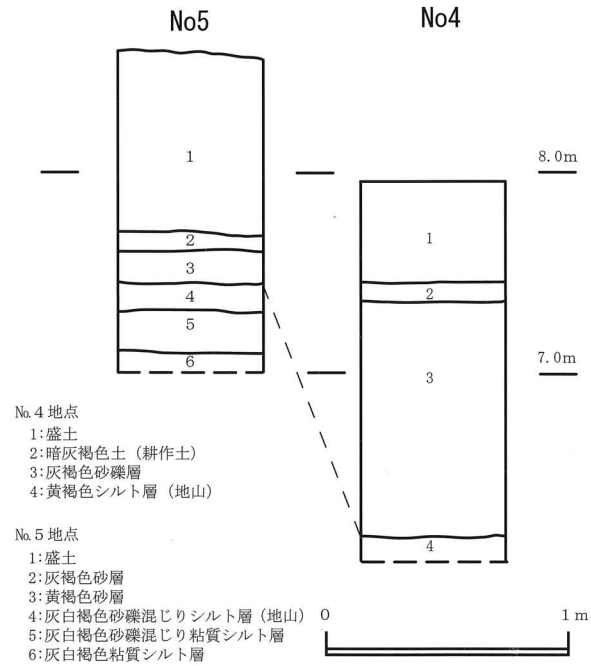
府道を挟んで位置し、直線距離では10ｍと近い距離にあるNo.１とNo.２地点を比較すると、No.１地点では現地表下約2.6ｍまで砂層であり、地山は全く確認できなかった。一方、No.２地点では現地表下約0.5ｍで地山を確認できる。急激な地山の下がりから流路方向は不明であるが、河川の存在を想定できる。

また、No.４地点とNo.３・No.５地点の地山レベルを比較すると、No.４地点の地山レベルが約１ｍ低い。ここでも、地山が低い箇所には、砂礫層が堆積しており、埋没した河川の存在が想定される。その場合、想定される河川は府道に直行して流れていたと考えることができる。

今回の調査地は南東から北西の海側へ一直線に走る道に沿っており、当初地山は海側へ向かって緩やかにレベルを減じているものと思われたが、調査により複数の流路と起伏のある地形が復元される。



第25図　調査地点位置図（Ｓ＝1/40,000）



第26図　土層図

（レベルは吉見交差点を10.0ｍとした仮ベンチマークである）

鮎川（あゆかわ）・ミクリ遺跡（０６０２４）

（１）高槻市西町地内
（２）都市計画道路富田目垣線整備事業
（３）井西貴子

はじめに　今年度の調査は昨年度（鳥飼八町富田線の鮎川交差点の北側・鮎川遺跡）の北側に位置する。東西約200ｍ間、未買収地を残し７箇所に分けて調査を実施した。調査区全体での基本層序はほぼ同じ堆積状況を示している。第６層上面で足跡と大畦畔（Ｃ区）を確認した。部分的に実施した下層確認では、第６層下面から下に灰色砂層（約50㎝）、淡黄色砂層（約40㎝）、灰色粘質土から粘土(層厚不明)が確認された。

基本層序

①第１層　旧耕土。調査区ほぼ全域で確認される。標高5.8～5.9ｍ。層厚0.1～0.4ｍ。土師器・須恵器・青磁碗・染付などが出土した。開発以前の耕作土である。

②第２層　耕作土。調査区全域で確認される。標高5.3～5.6ｍ。調査区によっては上面に鉄分が沈着している層でさらに分層できる。土器は小片であるが、弥生土器・土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・磁器・陶器・昭和の陶器などが出土した。暗青褐色粘質土。

③第３層　耕作土。標高5.0～5.3ｍ。調査区によってはさらに細分される。中世の遺物を包含する。近現代の遺物の出土はない。暗青灰色粘質土。

④第４層 包含層。標高4.8～5.1ｍ。灰黄褐色粘質土。奈良時代から平安時代までの遺物を包含する。

⑤第５層　古墳時代包含層。褐灰色砂質土＋鉄分含む。

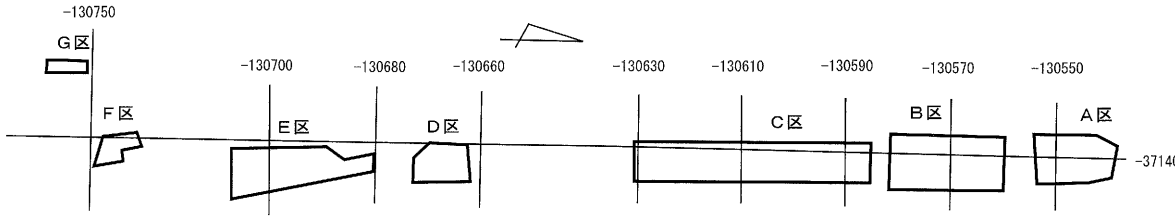
⑥第６層　水田層。調査区全域で確認される。標高4.6～5.1ｍ。層厚0.1～0.4ｍ。庄内～布留式期の遺物が出土した。オリーブ褐色粘土。古墳時代前半の遺物を包含する。Ｃ区では、上面で足跡（人・動物）、大畦畔を検出した。

⑦遺構埋土

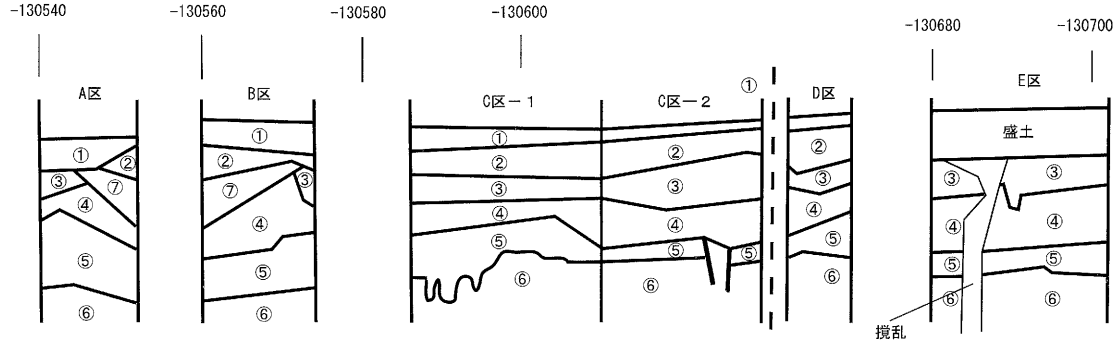
まとめ

２年度にわたって実施された調査である。

調査区は南北に長い範囲でトレンチ調査。いくつかの調査区で旧流路が北西から南東にかけて流れていたことが確認された。基本層序でも記してきたが、最下層は砂層堆積であり、弥生時代中期の段階ではほぼ調査区全域が流路であった可能性が指摘される。古墳時代初頭から前期にかけては粘質土が確認され、上面で足跡・畦畔を確認したので水田であったと考えられる。奈良時代から平安時代にかけては再び調査区によって砂層堆積が確認されるので、安定した状況ではない。その後中世以降は客土も含め、幾度かの耕作が確認される。昨年度調査区南端では耕作土層と同位層と認識できる層上面で柱穴が確認されており、集落は南に広がると推定される。



第27図　調査区位置図



第28図　基本層序模式図

大町（おおまち）遺跡（０６０３１）

（１）岸和田市大町地内
（２）府営岸和田大町住宅建替え
（３）上林史郎

はじめに

本遺跡は、岸和田市の市街地のほぼ中央にある。

今年度の調査区は、奈良時代の高僧行基が築造したと伝えられる久米田池より流下する天ノ川の両岸に位置する。平成15～16年度に実施された第１期住宅建替えに伴う調査区の西側にもあたっている。調査は、住宅内の新設道路に伴う調査区(１区・２区)と住宅建設に伴う調査区(３区)を対象とし、平成18年10月から平成19年２月末日までの間に実施した。調査面積は1,840㎡をはかる。

調査の成果

遺構では、弥生中期中葉の河川、弥生後期後葉の河川、鎌倉～南北朝時代の石組及び木組の井戸、土器溜まり、土坑などが検出されている。遺物では、鎌倉～南北朝時代の瓦・土釜・瓦器・土師器を中心にコンテナ約40箱が出土している。

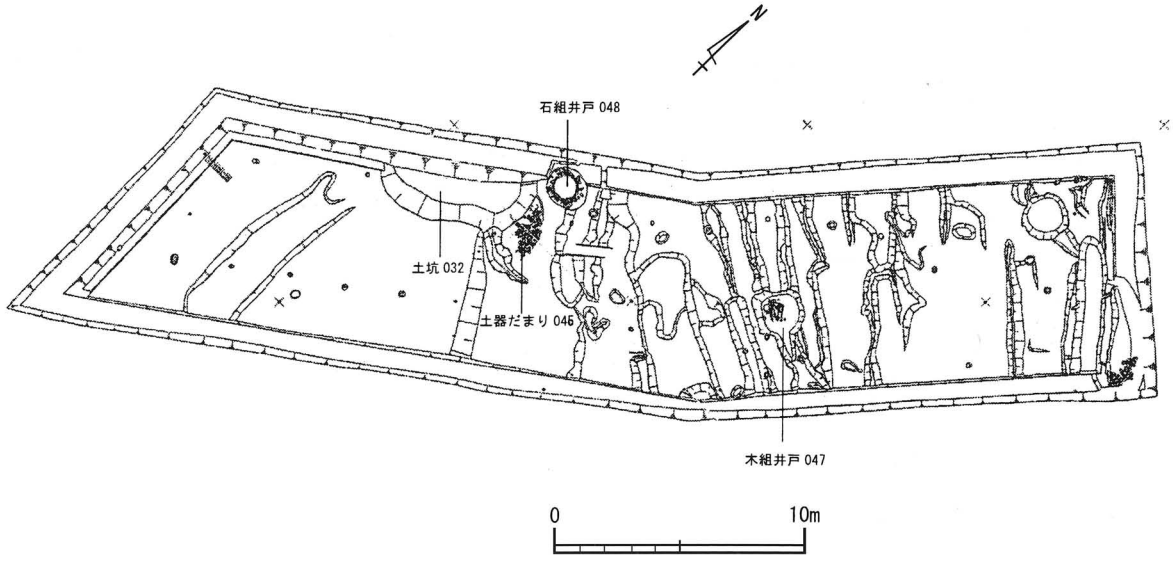
遺構の時期は、弥生時代と鎌倉～南北朝時代に大分される。ここでは主要な遺構について述べよう。

弥生中期中葉の河川　３区の弥生後期遺構面の空測終了後、調査区中央に長さ35ｍ、幅３ｍ、深さ0.7ｍのトレンチを設定したところ、下層で弥生中期中葉の土器や自然木を含む河川堆積層を確認した。ベース面は完全な砂礫層である。これらの状況から、弥生後期の河川の下層に、その規模はわからないが、さらに大規模な河川の存在が推定されよう。

河川50　３区の東端で検出された弥生後期の河川である。西南から東北へ弧状にめぐる。その規模は、長さ20ｍ以上、幅３ｍ、深さ0.6ｍをはかり、断面はU字状を呈する。埋土は黄粘混じりの暗青灰色粘質土である。出土遺物は概ね少ないが、弥生後期後葉のタタキをもつ甕などが出土している。この河川は、本調査区の東側に位置する平成16年度１区の河道３に接続するものと考えられる。

木組井戸047　２区の中央やや東寄りで検出された。上部の構造は、一辺0.6ｍの範囲に杭や板を打ち込んで方形枠をつくり、それを横板で留めたものと考えられる。下部は、径0.45ｍと0.35ｍの二つの底の無い曲物桶を入れ子にし、外側を幅0.1ｍの曲物板で五段にわたって留めたものである。構築時期は、出土遺物から14世紀前半頃と考えられる。

石組井戸048　２区のほぼ中央北端で検出された。掘方は、径2.05ｍ、深さ1.6ｍをはかり、断面は逆台形を呈する。掘方の周囲には、検出面から1.3ｍの深さまで、人頭大や拳大の河原石を巧みに貼り付け、石組を構築していた。なお、石組は控え積みが無く、一重である。石組の下部には、一辺0.5ｍ前後の長方形板を四方に組んで貯水槽としている。なお、井戸内部の内法が狭く、かつ湧水が激しいため、層位的発掘はできなかった。ただ、埋土内より、釣瓶に使用したと考えられる径0.18ｍ前後の曲物桶の



第29図　２区遺構図

一部や、漆器椀、瓦器、青磁などが出土している。それらから、本井戸の廃絶時期は、14世紀前半頃と考えられる。

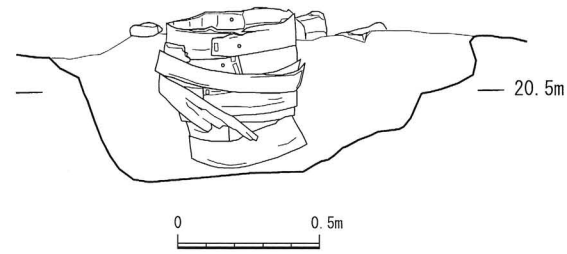
土坑32　　２区の石組井戸48の西側で検出された。大部分が調査区外にあたるため、全形やその規模はわからない。検出した規模は、長さ８ｍ以上、幅2.5ｍ以上、深さ1.1ｍ以上である。断面は逆台形を呈し、平面形はおそらく隅丸方形を呈するものと考えられる。埋土内からは、コンテナ20箱に及ぶ瓦などが出土している。埋土の堆積状況をみると、徐々に埋まったものではなく、一気に埋め立てられた様相を呈する。

こういった多量の瓦の出土や、石組井戸・木組井戸などの存在から考えると、大規模なものではないが、本調査区の近接した場所に中世の寺院(坊院)が存在したかもしれない。なお、瓦の中には、蓮華文の軒丸瓦瓦当も出土しており、寺院が平安時代後葉まで遡る可能性もあろう。

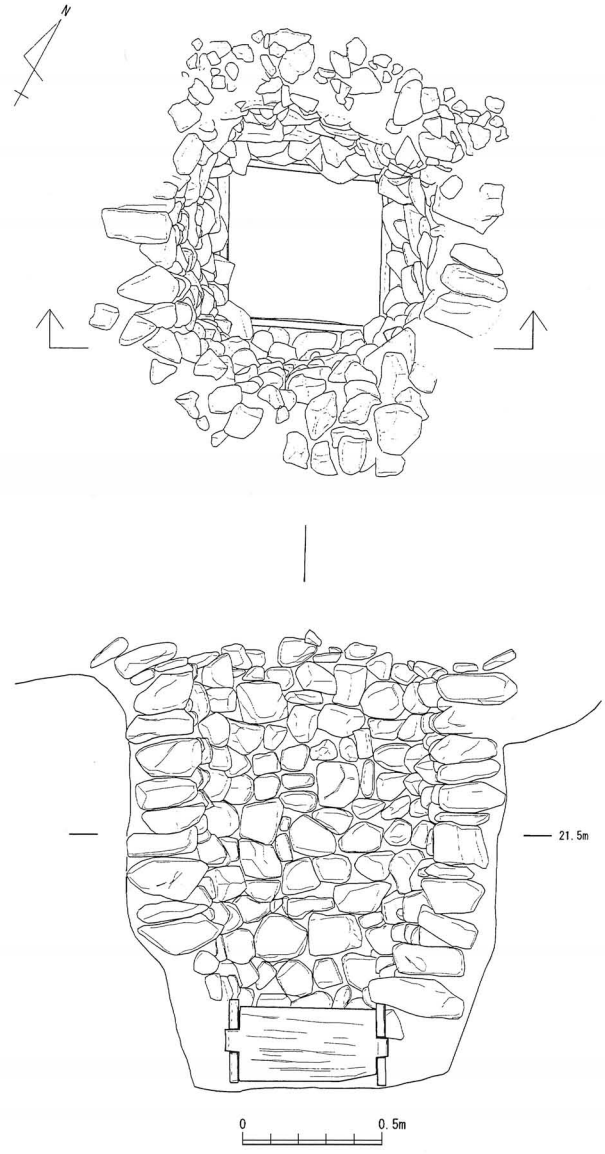
第30図　木組井戸47（南西から）

第31図　石組井戸48上面(南から)

第32図　石組井戸48側面（南西から）



第33図　木組井戸47側面図



第34図　石組井戸48平面図・側面図

旧府庁跡（０６０３７）

（１）大阪市西区江之子島
（２）旧大阪府立産業技術研究所大阪本所土壌改良工事
（３）辻本　武

調査に至る経過

大阪市西区江之子島に所在した旧大阪府立産業技術総合研究所は和泉市に移転し、その跡地において2006年度に土壌改良工事が施工された。その際に煉瓦構造物の発見が通報された。

この場所はかつての大阪府庁舎跡で、その建物は明治７年（1874）に完成し、大正15年（1926）に現在の中央区大手前に移転するまでの間、地方行政の中心として機能した。さらにその後は大阪府工業奨励館として利用され、昭和20年（1945）の大阪空襲により焼失した。

発見された構造物は煉瓦の壁体で、この府庁舎建物基礎の可能性が高いと考えられた。しかしそれは工事に伴い撤去されることとされていたので、工事関係者の協力を得て緊急調査を行なった。またあわせて建物全体の基礎遺構の残存状況を調べるために試掘トレンチを設定するとともに、工事によって出土した遺物の一部を採集した。

検出した遺構

Ａ区　G.L.－1.2ｍほどの深さで煉瓦壁体が発見されたので、その周辺を掘削して全体を検出した。土壌改良工事による矢板打設のために一部破壊されていたが、残る壁体の遺存状況は良好であった。幅0.5～0.7ｍ、高さ1.0～1.3ｍ、延長は東西７ｍ、その西端で北へ直角に曲がって１ｍ伸びるもので、建物の南西コーナー部分と判断された。

煉瓦壁体の横幅（厚み）は、南西コーナーより４ｍの位置より西では0.7ｍ、東では0.55ｍの違いとなり、平面の形状では段となる。この位置は間仕切り設置地点に相当するので、内側の部屋の仕切りによって外面壁体の横幅を変えたものと思われる。

またこの内側の部屋については、床面のレベルおよび防水工事が丁寧に施されている点から、地下室と考えられる。記録によれば旧府庁舎は当初「二階建」で、地下室は記されていない。しかし大正５年(1916) 増築後と思われる図には「地階」があるので、今回検出した遺構はこの時のものと考えられる。

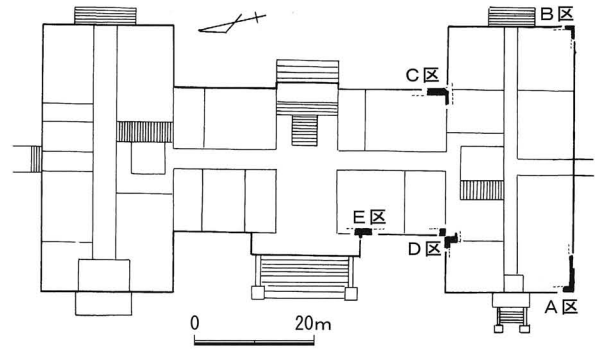
壁体の最下段の三段分に明治中期以降に出現するとされる赤褐色の煉瓦が使用され、そこから上には主として明治前期までの製作とされる黄色みのある煉瓦が積まれていることが判明した。そのなかに「授産所」刻印煉瓦が含まれている。

Ｂ区　Ｂ区では建物の南東コーナーと考えられる煉瓦壁体が発見された。これはＡ区の南西コーナーに対応するものと判断された。これによって旧府庁舎建物の南側外面の長さは44.7ｍであることが判明した。内法で24間（43.6ｍ）の設計であったと思われる。

Ｃ区　Ｃ区では当初の府庁舎建物に伴うと考えられる石灰コンクリート布基礎を検出した。基礎の幅は1.5ｍ前後、厚さ0.6ｍである。この下からは建物建設以前の近世遺構が観察された。

Ｄ区　Ｄ区は正面中央部に右翼部が取り付くコーナーの想定される地点である。その結果、平面的にはクランク状に曲がる煉瓦壁体を検出した。

Ｅ区　Ｅ区では石灰コンクリート布基礎と、その上面に据えられた御影石切石を検出した。これは当初建物に伴う基礎と考えられる。



第35図　旧府庁舎（増築後）平面図・検出遺構位置

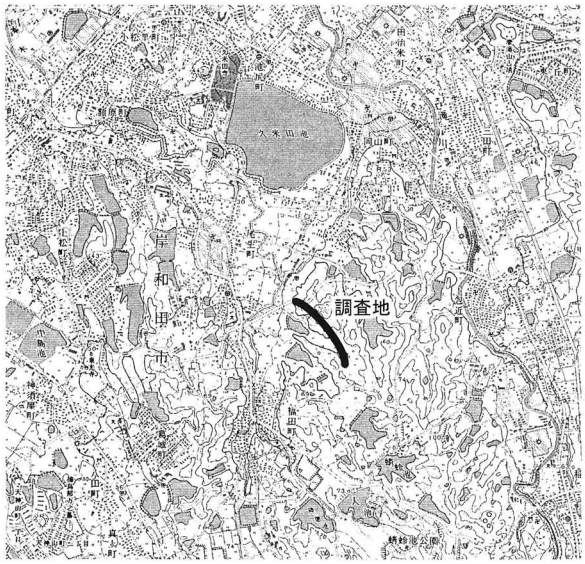
第36図　Ａ区建物基礎煉瓦壁体（南から）

府道春木岸和田線試掘調査（０６０３９）

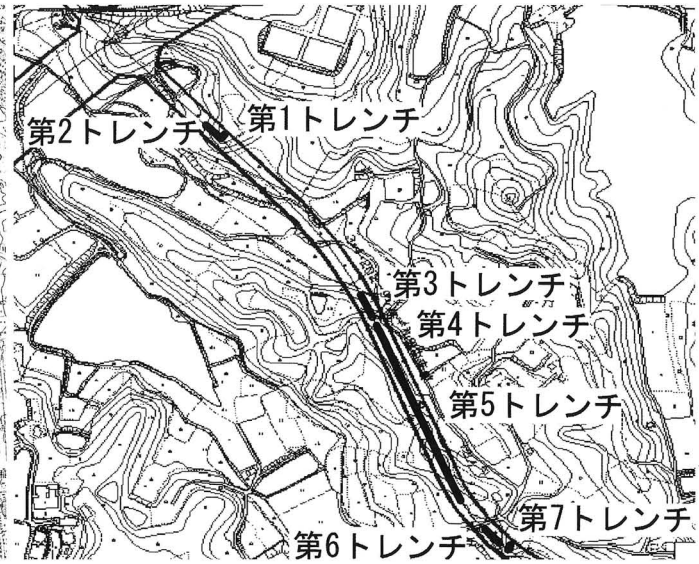
（１）岸和田市三ヶ山町
（２）一般府道春木岸和田線道路改良工事
（３）藤澤眞依

交通道路室道路整備課からの依頼により平成18年10月30日～11月10日に現地試掘調査を行った。調査対象範囲は道路幅20ｍ、延長約600ｍの範囲である。道路中心線上に幅１ｍのトレンチを７ヶ所設定した。

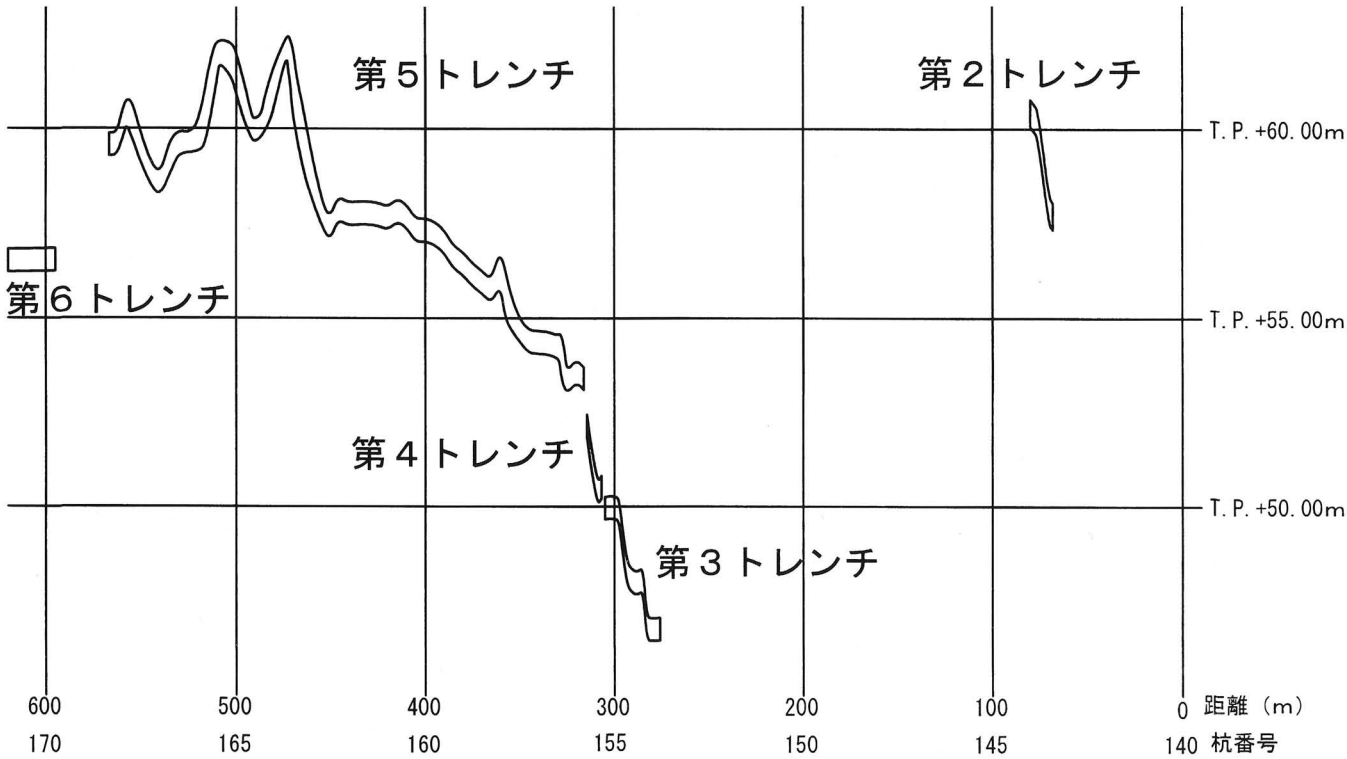
１・７トレンチは道路を横断するように伸びる尾根上に設定し、２～６トレンチは山の斜面に縦断方向に設定した。谷部は人間が立つだけでも沈み込むような湿地であったため設定しなかった。トレンチの延長は約450ｍである。表土・竹の根等を除去すると僅かな堆積土があり、砂や粘土の地山が現れた。遺構はまったく確認できず、遺物も出土しなかった。



第37図　調査地位置図



第38図　調査区配置図



第39図　断面模式図

山城（やましろ）廃寺（０６０４９）

（１）南河内郡河南町大字山城
（２）府営ため池整備事業（山城新池）
（３）小山田宏一

はじめに

山城新池のため池整備事業（堤・洪水吐改修）に先立ち、その北堤が山城廃寺の遺跡範囲にはいるので、堤法裾に1.5×2.0ｍの調査トレンチ（１～４）を設定して確認調査を実施した。

山城廃寺と山城新池

山城廃寺（河南町山城字宮ノ前）は、河南台地を刻み北流する東条川と梅川に挟まれた段丘面にあり、白鳳の寺院跡として周知がはかられている。遺跡範囲は南北500ｍ、東西300ｍで、方格に濃い網を掛けた範囲は藤澤一夫氏の推定した伽藍域である。推定伽藍域の東には降幡神社跡があり、昭和７・８年頃の社殿改築時に、奈良県川原寺や和泉市池田寺出土品に類似する軒丸瓦が採集されている。神社跡の西方には礎石が残されていたが、現在は町内の施設で保管されている。今回確認調査を実施した山城新池の北堤は、この山城廃寺の南端にあたる。

遺跡の所在する山城、別井、寺田地区は、千早川灌漑域の流末にあたり畑田三郷と呼ばれるほど水不足に悩まされた地域で、17世紀以降にために池の築造が始まる。周辺ため池で、山城新池は２番目に新しく、明治29（1913）年の築造である。西の古池、東の今池は谷口を塞き止めるダム式のため池だが、山城新池は池内から採取した砂礫土を四周に積み堤を造る皿池である。

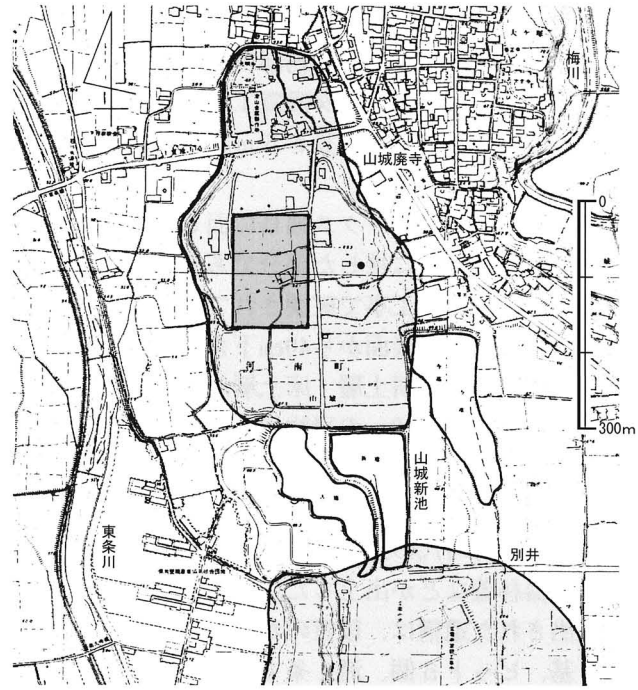
調査成果

堤盛土直下に耕土層があり、耕土層を除去すると地山面が現れ、調査区１・２で東西方向の溝、調査区３・４で柱穴の存在を確認した。

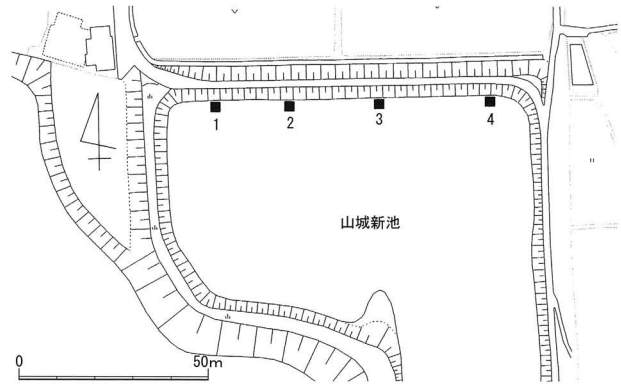
調査区３・４区の柱穴は密集していて、あわせて11基を数える。付近に建物があったことは間違いない。検出面の標高は67.5ｍ。柱穴は平面形や埋土の特徴から２群（Ａ・Ｂとする。）に区分することができる。Ａ群は隅丸方形で、埋土に地山土がブロック状に混じる。調査区４では120×75㎝の大形柱穴を確認している。Ｂ群は円形で、20～50㎝の規模にまとまる。出土遺物は奈良時代から平安時代の須恵器・土師器が多く、遺構の年代は古代におさまると判断している。

まとめ

山城廃寺との関係は不明だが、遺跡範囲の南端に古代の建物群が存在していたことを明らかにした。



第40図　遺跡位置図



第41図　調査地点位置図

第42図　山城新池北堤

陵西（りょうさい）遺跡（０６０５２）

（１）堺市堺区中安井町３－４－１
（２）泉北府税事務所エレベータ設置工事
（３）西口陽一

はじめに

今回の調査は、大阪府総務部税務室税政課による泉北府税事務所エレベータ設置工事に伴う発掘調査である。面積は、幅３ｍ長さ５ｍの15㎡である。

調査結果

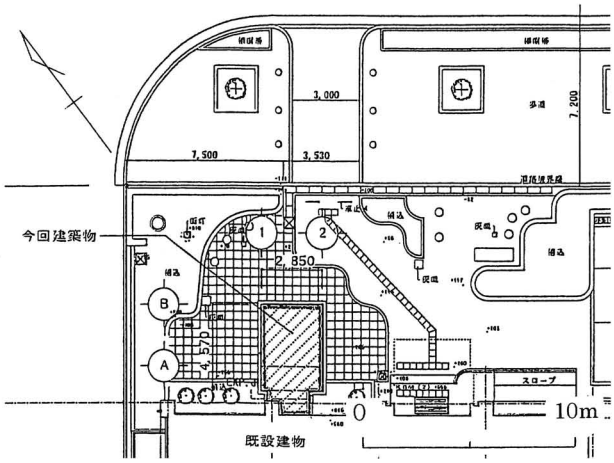
調査区は、フェニックス通りに面した府税事務所の玄関西側の建物に接した部分である。建物から１ｍ部分は、過去の工事で破壊されていた。

標高６ｍの現地表面から40cm下までは、新盛土層で、その下に旧の耕土層・床土層が残っていた。その下に、厚さ５～10cmの遺物包含層があり、コンテナ１箱の量の奈良時代の土師器（杯・杯蓋・高杯・甕など）、須恵器（杯・甕・釣鐘形イイダコ壺など）と少量の鎌倉時代の瓦器椀・土師器小皿、古墳中期の須恵器杯蓋などが出土した。

検出された遺構は、後世のかく乱が多かったが土坑３基、ピット５個、溝１条であった。遺構の切り合いから、溝はピットより古いものであった。溝や土坑、ピット３からは奈良時代の土器が出土し、ピット２の底からは鎌倉時代の瓦器椀片が出土した。

ピット３やピット４の大きさは、一辺50cm程の方形で、深さは12～25cmであった。ピット１やピット５は、共に楕円形で、長さ40cm、幅25～30cm、深さ７～28cmであった。ピット２は、長さ75cm、幅50cm、深さ22cmであった。

土坑は、３基が東西に並んで隣接して検出され、楕円形で、幅60～70cm、長さ80～120cm以上、深さ23～42cmであった。溝は、東西方向に直線的に検出され、長さ３ｍ、幅1.4ｍ以上、深さ30cmであった。



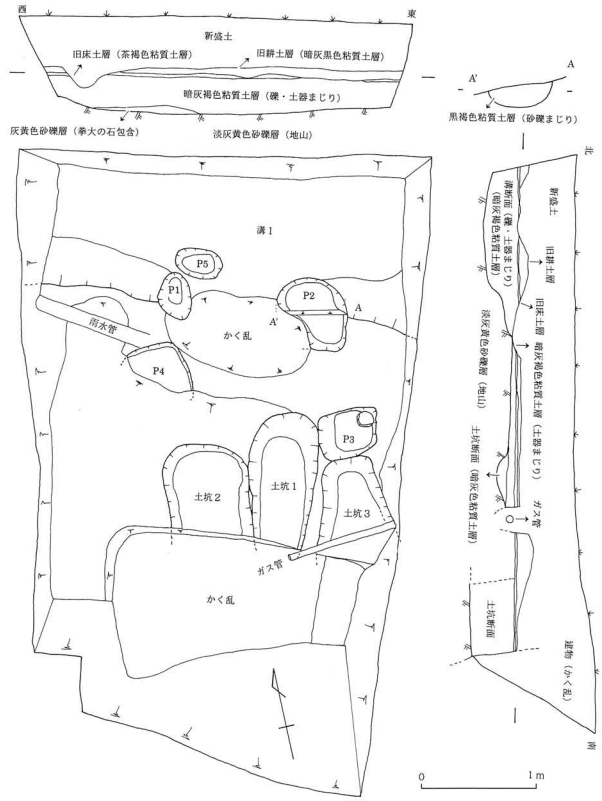
第43図　調査区位置図

埋土は暗灰褐色粘質土層で、礫や土器が多数包含されていた。埋土の状況からすると、水が頻繁に流れていたような溝ではなかった。地山は、淡灰黄色の砂礫層であった。

まとめ

陵西遺跡は、古墳時代の玉造遺跡として著名であったが、今回の調査で、奈良時代の遺構・遺物が発見され、奈良時代の集落遺跡であることが分ってきた。地表下60cmに遺構が良好に残っているので、今後とも綿密な調査が必要である。

第44図　調査状況（東から）



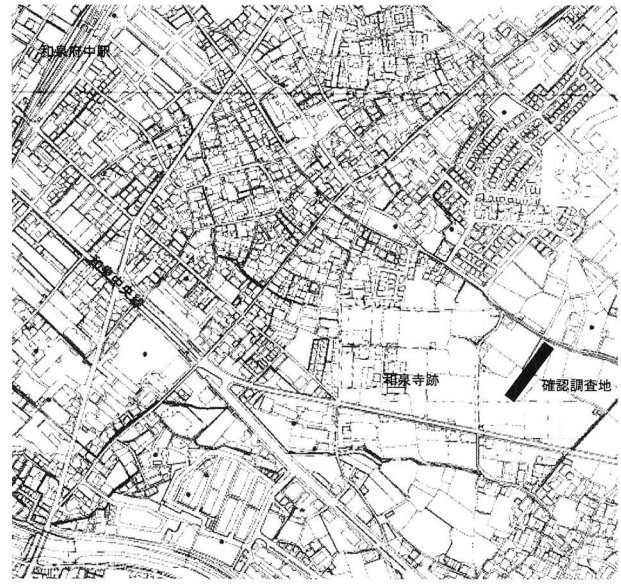
第45図　平面図・断面図

和泉寺跡（０６０５７）

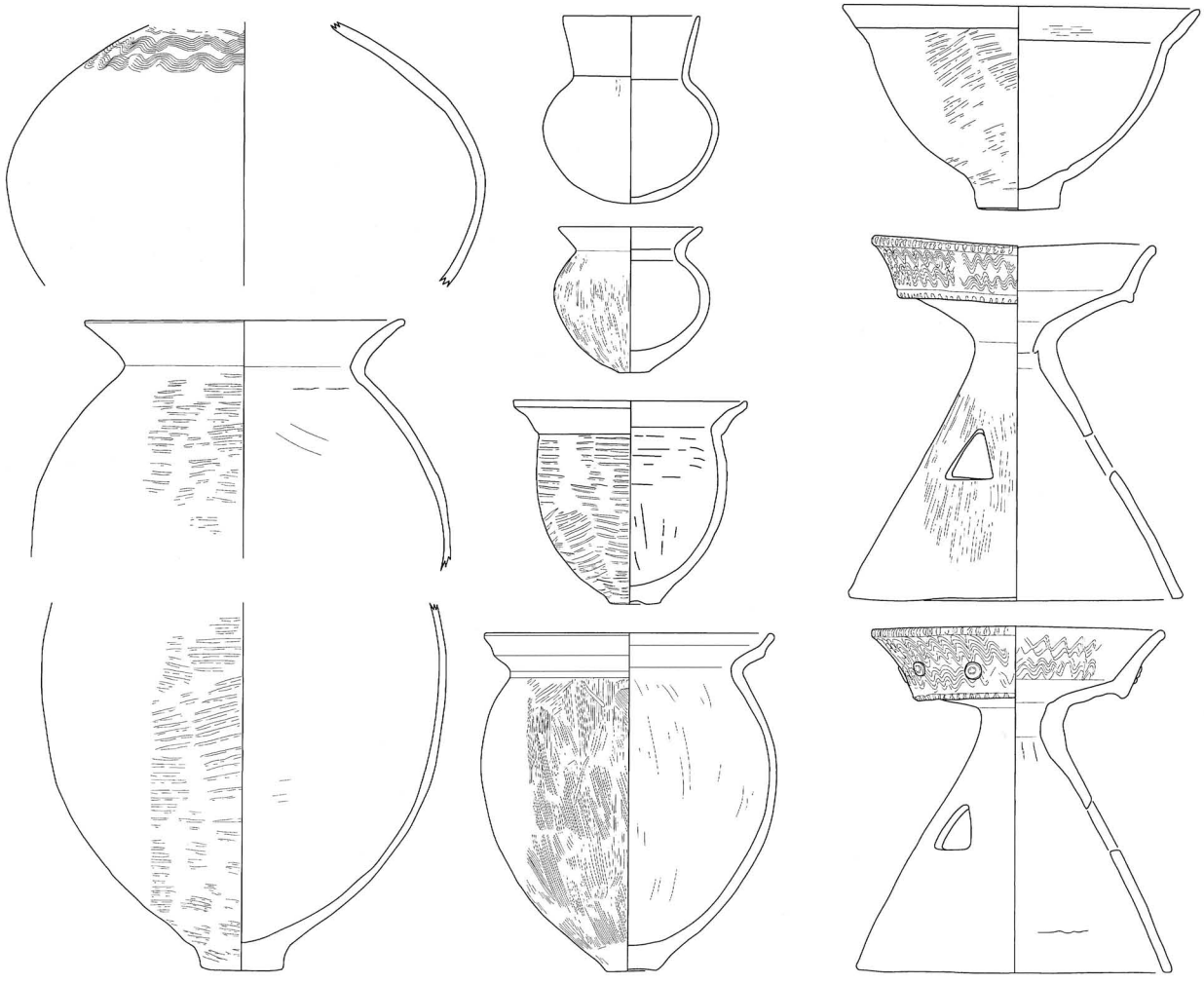
（１）和泉市府中町４丁目
（２）都市計画道路大阪岸和田南海線整備事業
（３）藤澤眞依

交通道路室街路課からの依頼により平成19年１月９日～２月16日に確認調査を行った。調査対象範囲は道路幅20ｍ、延長約120ｍの範囲である。道路用地両端に幅１ｍのトレンチを６ヶ所設定し、延長160ｍを調査した。

調査地内の耕作土は大部分が除去されていた。１トレンチでの基本層序は①灰黒色土（耕作土）0.05ｍ、②黄灰色粘土（床土）0.1ｍ、③灰色土0.1ｍ、④茶褐色土0.15ｍ、⑤灰褐色粘土0.05ｍ、⑥灰褐色砂礫0.4ｍ以上となっている。⑥灰褐色砂礫上面は南に向かって緩やかな起伏を繰り返し下がる。５トレンチでは⑥灰褐色砂礫上面で土器溜とピット、⑤灰褐色粘土上面で溝を検出した。土器溜からは図示した庄内式並行期の土器が多量に出土した。特に器台はあまり見かけないものである。出土遺物はコンテナに３箱出土した。



第46図　調査地位置図



第47図　出土遺物実測図

島泉南遺跡（０６０５８）

（１）羽曳野市島泉１丁目
（２）一般府道島泉伊賀線交通安全施設等整備事業
（３）小山田宏一

はじめに

近鉄南大阪線高鷲駅西側踏切の北側に、長さ19ｍ、幅２～３ｍの調査区を設定した。

調査成果

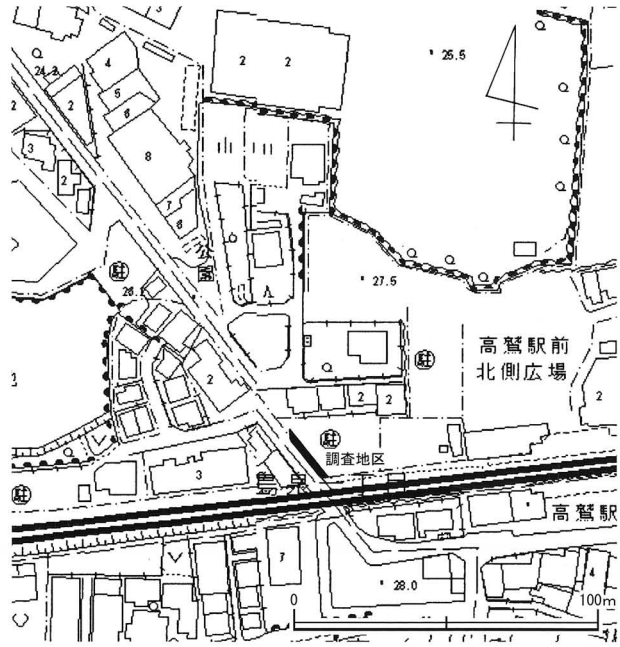
現代の盛土と中世・近世の耕土層を除去した地山（黄橙色粘土）面で遺構を検出した。地山面は標高26.4～25.8ｍ、南から北に向かって緩やかに下る。古墳時代と古代末～中世の二時期の遺構がある。古墳時代の遺構はアミをかけた溝である。他の遺構は古代末～中世である。

古墳時代の溝は、全長10ｍ以上、幅0.5～１ｍ、調査区内で北端を確認している。溝内の北と南には土坑状のくぼみがあり、その間の一段高くなったところから須恵器・土師器の土器群を検出した。大半が完形で、土師器には小形直口壺１、大形複合口縁壺１、甕２、高坏１、須恵器には高坏２、坏身10、坏蓋２がある。須恵器は0.6×0.4ｍという狭い範囲に、上記の個体が集積していた。須恵器はＴＫ216型式併行で、一括性が高い。

古代末～中世の遺構は、柱穴と土坑である。柱穴は調査区の北と中央にまとまるが、建物を復元するにはいたっていない。柱穴の年代は、瓦器を基準にすれば11・12世紀頃に中心がありそうである。柱の抜き取り跡には、土師器小皿を納めている例がある。調査区南端の土坑からは黒色土器、瓦器、土釜、平瓦、白磁等が出土した。

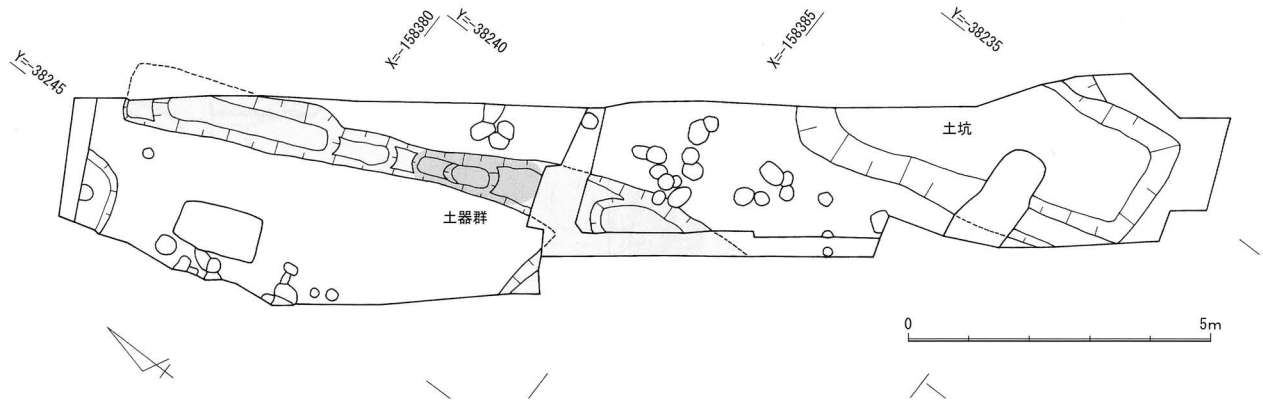
まとめ

古墳時代中期と古代末～中世の遺構を検出した。古代末～中世の遺構群は、遺跡周辺における中世的開発の開始年代を考察する資料になる。



第48図　調査区位置図

第49図　ＳＤ01土器出土状況



第50図　遺構図

千里丘（せんりおか）遺跡群（０６０６１）

（１）摂津市千里丘１丁目
（２）都市計画道路千里丘三島線道路改良事業
（３）小川裕見子

はじめに

平成17年度より継続して、ＪＲ千里丘駅の東西をつなぐ小坪井架道橋の拡幅工事が行われている。平成17年度は、当該道路の北側、ＪＲ線路西脇を200㎡に渡って調査し、中世を中心に、耕作の痕跡と柱穴、それらに伴う遺物を確認した。また、縄文時代のものと見られる地層より130点余りのサヌカイト製石器の集積を検出した。平成18年度は、17年度調査区の西側に隣接する178㎡の調査を行った。

調査の概要

最も遺構が集中していたのは平成17年度の調査同様、中世の遺構面であった。地山が北東から南西にかけて上昇し、傾斜地から平坦な面を獲得するため、中世の耕作面は、わずかにレベルの異なる３区画に分けることができた。それぞれに、ほぼ地山の傾斜と同じ北東から南西方向に走る鋤溝群と円形の柱穴群を検出した。鋤溝群は一番西側の微高地の区画において、他区画と比べ東西方向優位にわずかに振れる。掘立柱建物が５棟存在した可能性があり、主軸は鋤溝群とほぼ平行にある。うち１棟は、前述の調査区北西隅にあたる微高地にあり、この１棟のみ他とは異なり、正東西南北方向に、ほぼ沿った方向にある。

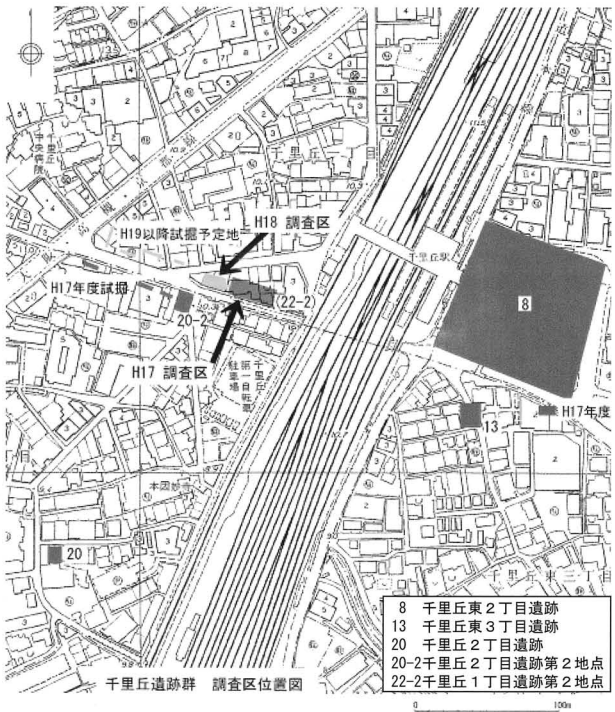
古代の遺構面においては、調査区西半のやや高い部分では、遺構は削平されており、東半において、鋤溝群と隅丸方形を主とする柱穴群を検出した。

出土遺物は多くはないが、中世の遺構面を中心に、陶磁器・瓦器・土師器・須恵器片、古代の遺構面からは主に土師器の細片が出土した。

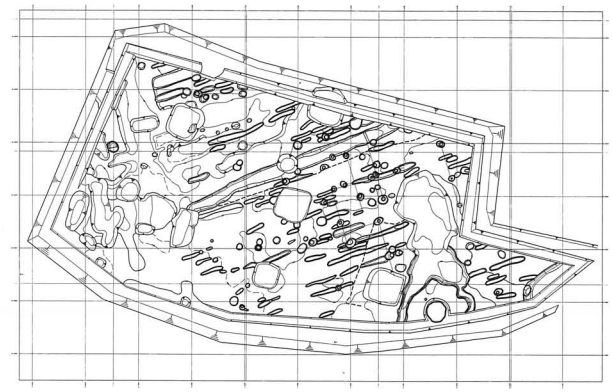
調査はさらに下層まで継続して行ったが、平成17年度調査に見られたような、サヌカイト片、及びそれに伴うと見られる遺構は検出されなかった。

まとめ

平成18年度調査の結果、遺跡の範囲は、平成17年度調査の結果を受けて千里丘１丁目遺跡第２地点とされている範囲を超えて、さらに西へ広がることがわかった。



第51図　調査区位置図



第52図　中世遺構面平面図

第53図　調査区全景

【資料紹介】

高槻住宅（北園遺跡）・高槻芝生住宅試掘調査

はじめに

高槻市北園町所在府営高槻住宅、芝生町所在高槻芝生住宅の建替工事に伴い、建替予定地内に各々３箇所・７箇所のトレンチを設定し、平成16年７月下旬から８月にかけて、試掘調査を行った。調査担当は一瀬和夫である。

高槻住宅試掘調査（０４０２０）

高槻住宅内の試掘トレンチでは、遺構・遺物の検出・出土があった。

Ａ８では土師器を含む中世包含層をO.P.＋7.9ｍ付近で検出した。Ａ６では古代の土師器がO.P.＋7.85ｍ付近で出土した。Ａ７では、古代の落ち込みをO.P.＋8.15ｍ付近で検出した。下層では弥生時代のピット・落ち込み・溝をO.P.＋8.05ｍ付近で検出した（第59図）。図面の遺物２~７はすべて土層断面図14付近、Ａ６トレンチのマンガン粒を多く含む黒灰色ブロック土を含む淡茶灰色シルト層から出土したものである。

この試掘調査の結果を受けて、当該予定地は平成16年度新規発見遺跡、北園遺跡とされた。

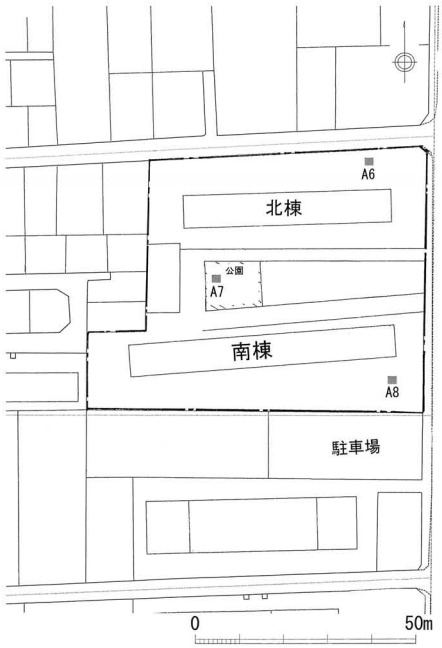
高槻芝生住宅試掘調査（０４０２１）

高槻芝生住宅試掘調査では、遺構・遺物の検出・出土は多少は見られたが、高槻住宅試掘調査ほど顕著でなかった。

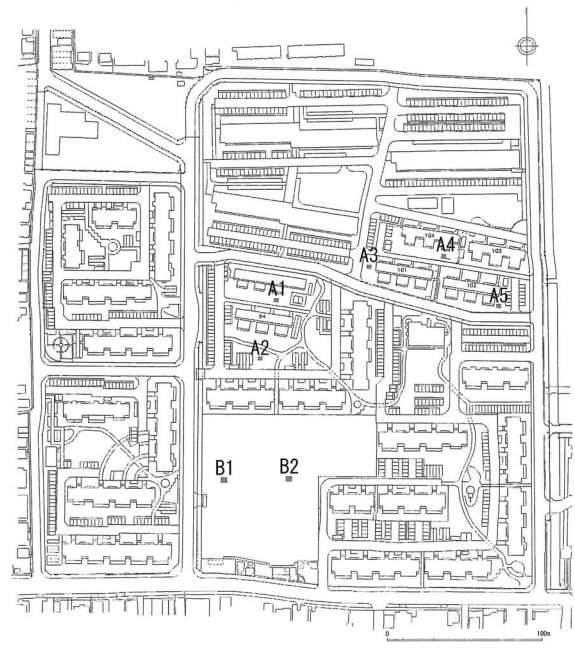
遺構が検出されたのはＡ４・Ａ５トレンチの二箇所における畦畔と足跡のみであった。（第60図は土層断面図のＡ５トレンチ25上層。）遺物はＡ１トレンチT.P.＋4.6ｍ付近の赤・黒色粒含む灰色粘質シルトより弥生土器片、Ｂ１トレンチT.P.＋4.0ｍ付近の赤色粒を多く含む明灰色粘土より須恵器片等が出土したがいずれも磨耗した細片で図化し得るものはなかった。

第57図７が唯一図化し得た遺物であった。上層より出土した青磁であるが、攪拌を受けた層からの出土である。

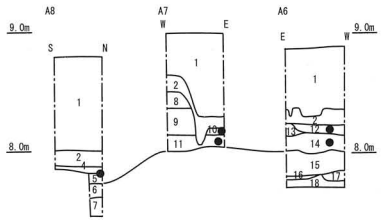
この試掘調査の結果、高槻芝生住宅内の７箇所の試掘トレンチでは、遺構・遺物の検出・出土は多少みられたが、周知の遺跡とはされていない。遺構・遺物が存在する可能性のある地層の深度が深いため、工事掘削深度が遺構・遺物の深度に到達しない場合は、慎重工事との判断をくだした。



第54図　高槻住宅（北園遺跡）試掘調査区位置図

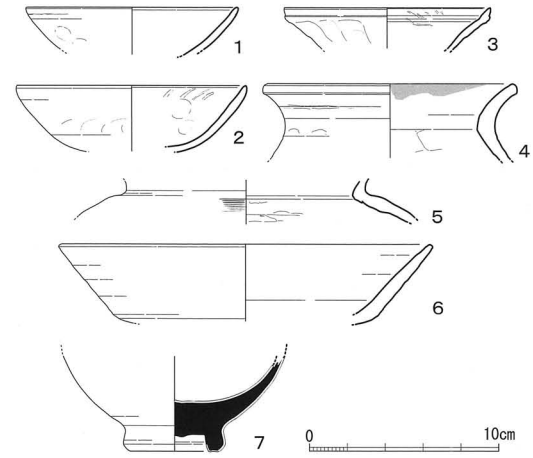


第55図　高槻芝生住宅試掘調査区位置図

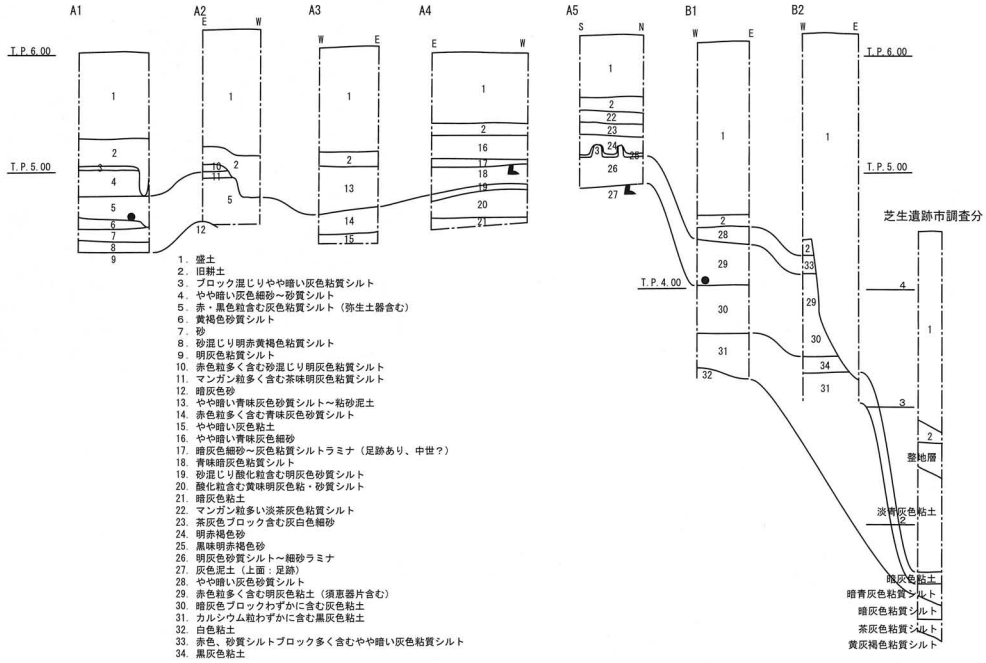


1. 盛土
2. 旧耕土
4. 遺茶灰色粘土
5. 赤色粒ブロック含む淡黄灰褐色砂質シルト（土師器含む）
6. 乳黄灰色粘土
7. 黒・黄味灰色粘土
8. 黄褐色砂土（下面：近世）
9. 黒色・マンガン粒、黄褐色粘・砂質土ブロック含む茶灰色粘質シルト（下面：古代～中世）
10. 赤味黄褐色土（瓦・土師器・須恵器含む：中世）
11. 黒色・マンガン粒含む茶灰褐色土（弥生土器含む）
12. 明赤褐色粘質シルト（土師器含む）
13. 黒味淡茶灰色粘質シルト
14. マンガン粒多く、黒灰色ブロック含む淡茶灰色粘質シルト（弥生土器含む、下面：中世？）
15. 黒・赤色細粒含む赤味淡灰色粘質シルト
16. 粗砂細層
17. やや暗い淡灰色粘質シルト
18. 砂混じり赤・黄色細粒含む明灰色粘質シルト

第56図　高槻住宅（現・北園遺跡）試掘調査区土層断面図

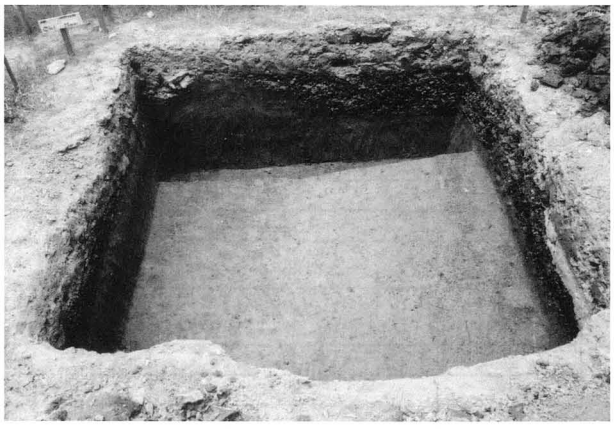


第57図　１～６高槻住宅（現・北園遺跡）試掘出土遺物　7. 高槻芝生住宅試掘出土遺物



1. 盛土
2. 旧耕土
3. ブロック混じりやや暗い灰色粘質シルト
4. やや暗い灰色細砂～砂質シルト
5. 赤・黒色粒含む灰色粘質シルト（弥生土器含む）
6. 黄褐色砂質シルト
7. 砂
8. 砂混じり明赤黄褐色粘質シルト
9. 明灰色粘質シルト
10. 赤色粒多く含む砂混じり明灰色粘質シルト
11. マンガン粒多く含む茶味明灰色粘質シルト
12. 暗灰色砂
13. やや暗い青味灰色砂質シルト～粘砂泥土
14. 赤色粒多く含む青味灰色砂質シルト
15. やや暗い灰色粘土
16. やや暗い青味灰色細砂
17. 暗灰色細砂～灰色粘質シルトラミナ（足跡あり、中世？）
18. 青味暗灰色粘質シルト
19. 砂混じり酸化粒含む明灰色砂質シルト
20. 酸化粒含む黄味明灰色粘・砂質シルト
21. 暗灰色粘土
22. マンガン粒多い淡茶灰色粘質シルト
23. 茶灰色ブロック含む灰白色細砂
24. 明赤褐色砂
25. 黒味明赤褐色砂
26. 明灰色砂質シルト～細砂ラミナ
27. 灰色泥土（上面：足跡）
28. やや暗い灰色砂質シルト
29. 赤色粒多く含む明灰色粘土（須恵器片含む）
30. 暗灰色ブロックわずかに含む灰色粘土
31. カルシウム粒わずかに含む黒灰色粘土
32. 白色粘土
33. 赤色、砂質シルトブロック多く含むやや暗い灰色粘質シルト
34. 黒灰色粘土

第58図　高槻芝生住宅試掘土層断面図



第59図　高槻住宅（北園遺跡）試掘調査　Ａ７トレンチ

第60図　高槻芝生住宅試掘調査　Ａ５トレンチ

【資料紹介】

旧府庁跡出土の刻印資料

「授産所」刻印煉瓦

「阪府　授産所」と刻印された煉瓦は、平成18年度旧府庁跡調査Ａ区で検出された煉瓦壁体のうち、下から八段目の位置で発見された。表面が黄色味をおびた赤褐色を呈し、そして小口面に刻印されているところから、明治時代初期頃に生産された煉瓦と推測された。

「阪府」は当時の通例で右から横書きされている。そしてこれが「大阪府」の略であることは容易に推定できる。従ってこの「授産所」は大阪府の官営授産所であり、当該煉瓦は明治初期の救済福祉行政に関係する遺物であると判断された。

『明治大正　大阪市史』等の文献には、大阪府は発足当初の明治元年より救済事業を開始したことが記録されており、授産所と煉瓦に関係するところについては下記年表のようにまとめてみた。それによれば、明治５年（1872）１月に清水谷にあった大貧院を「授産所」と改称して煉瓦製造を教授し、同年８月に難波新地に「出張授産所」を設置して煉瓦や陶磁器製造の教授および賃金を与えて入所者に従事させ、翌６年８月にこれらの授産所を廃止したとされている。「従事」の表現からすると、煉瓦は授産所のうちでも出張授産所で生産されたと考えられよう。従って難波新地に所在した出張授産所が、明治５年８月から翌年８月までの１年間に煉瓦製造・出荷を行なった可能性が非常に高いといえる。

旧府庁舎の完成は明治７年であり、また出張授産所とは直線距離で約３ｋｍの位置であることから、当授産所で製造された煉瓦が府庁舎建築に使われたものと判断できる。今回の刻印煉瓦発見はこれを裏付けるものである。

以上より府庁舎建物の煉瓦供給元の一つが出張授産所であったことは確実であろう。そしてこの資料

第61図　「授産所」刻印煉瓦

第５表　大阪府救済事業史　「授産所」関係年表

年　次	救　済　事　業
明治元年11月（1868）	・鰥寡孤独（寡婦や孤児・孤老など身寄りのない人たち）貧窮廃疾（極貧や障害者）のために「救恤場」を清水谷（現在の天王寺区）に設置。
４年４月（1871）	・救恤場廃止。
５月	・同所に「大貧院」を創設。
10月	・粉河町（現在の中央区）に「貧院分局」設置。
５年１月（1872）	・大貧院を「授産所」と改称。織物、裁縫、習字、養蚕、紡績、挽物、煉瓦、苗木栽培、養豚、藁細工等々の授産および教授。
５月	・貧院分局に「救助場」を開設。廃疾貧困者の救済。救貧と授産を分離。
８月	・「出張授産所」を難波新地（現在の中央区）に設置。煉瓦や陶器製造の教授および賃金を与えて従事させる。
６年８月（1873）	・授産所を廃止して同所に「第一勧業場」を設置。織物、晒、裁縫、煉瓦製造、紙漉、養蚕等々を教授。 ・出張授産所を改称して「第二勧業場」。 ・平野町（現在の中央区）に「第三勧業場」を設置。養蚕、メリヤス製造を教授。
10月	・第一・第三勧業場を民間に払下げ。第二勧業場は煉瓦製造等を継続。
11年３月（1878）	・第二勧業場を民間に払下げ。
14年６月（1881）	・救助場を廃止。民間の救貧施設に移る。

第６表　大阪府救済事業史　各設置場所での変遷

年　次 場　所	明治元～４年 (1868～71)	４年 (1871)	５年 (1872)	６年８月 (1873)	６年10月 (1873)	11年 (1878)	14年 (1881)
清水谷（天王寺区）	救恤場	大貧院	授産所	第一勧業場	払下げ		
粉河町（中央区）		貧院分局	救助場	→	→	→	廃止
難波新地（中央区）			出張授産所	第二勧業場	→	払下げ	
平野町（中央区）				第三勧業場	払下げ		

は大阪における福祉事業史研究にとって貴重なものとなる。

なお煉瓦製造は出張授産所廃止後の「第二勧業場」においても継続している。ここで製造された煉瓦も府庁舎建築に供給された可能性を考えることができるが、今回の調査では確認できなかった。

社印刻印煉瓦

当該地の土壌改良工事中において、大阪窯業、岸和田煉瓦、堺煉瓦の各会社の社印の刻印を有する煉瓦を採集した。そのうちの大阪窯業の刻印煉瓦には「子」字が付随していた。この会社の煉瓦には社印にカタカナ一字の刻印を伴うものが多いので、この「子」は「ネ」と読んだものと思われる。

他には製造所不明の「＋」刻印がある。

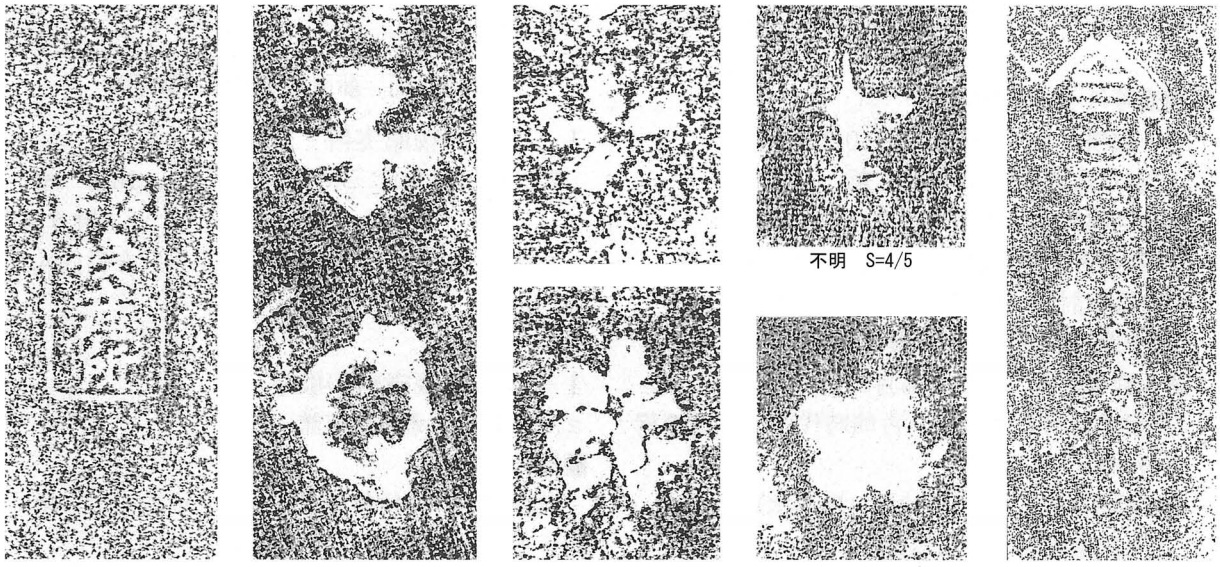
「三石□□株式会社」刻印耐火煉瓦

全体に白色を呈する耐火煉瓦で、その平の面中央の縦方向に「M三　三石□□□‥‥」の刻印がある。「M」はローマ字ではなく山形で、「M三」で一つのマークとなる。「式會」と読める部分があるので、「三石煉瓦株式會社」ではないかと考えられる。この会社は耐火煉瓦製造で有名で、明治25年に岡山県備前市三石で創業され、現在に至っている。

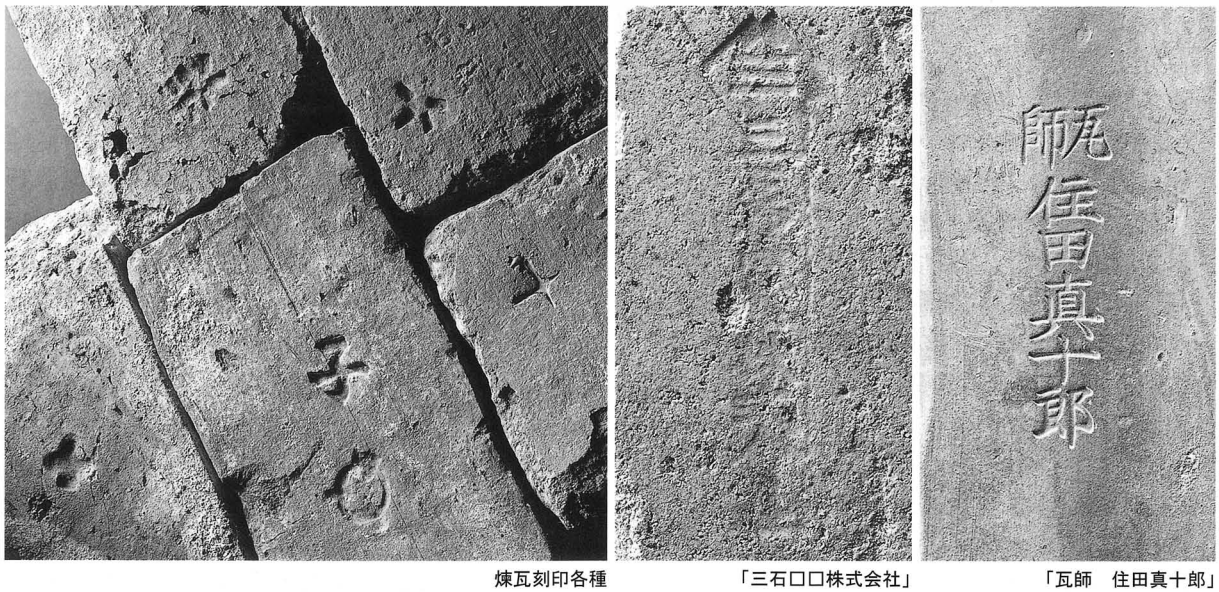
他に耐火煉瓦では「ＣＴＫ　ＳＫ３２」「ＯＹＴ　ＳＫ３４」の刻印を持つものと「□K□＝９２８」の印字の持つものを採集した。

「住田真十郎」刻印瓦

工事中に採集した井戸瓦である。府庁舎に伴う遺物かどうか不明であるが、小口面に「瓦師　住田真十郎」と刻印されている。これと同じ刻印は、近在では住友銅吹所跡の発掘調査で出土している。今のところ、この人物については不詳である。



第62図　煉瓦刻印拓本



第63図　刻印写真

平成18年度普及啓発・広報事業及び資料

1．普及・広報事業

1－1．研究会・検討会

■研究会

・第53回大阪府埋蔵文化財研究会

「ここまでわかった大阪の中世－近年の調査例を中心に－」

日時　2006年９月30日（土）

会場：大阪府教育委員会文化財調査事務所講義室

・第54回大阪府埋蔵文化財研究会

「近年の調査成果から」

日時　2007年３月24日（土）

会場：大阪府教育委員会文化財調査事務所講義室

・第24回出土木器研究会

日時　2007年３月３日（土）

会場：大阪府教育委員会文化財調査事務所講義室

■調査等スライド検討会

・第１回検討会　2006年５月10日（水）
「塚廻り古墳の調査」枡本 哲

・第２回検討会　2006年６月14日（水）
「能勢の考古学（最近の知見から）」辻本 武

・第３回検討会　2006年７月12日（水）
「府中遺跡の発掘調査」藤澤真依

・第４回検討会　2006年９月13日（水）
「蔀屋北遺跡Ｆ調査区　古墳時代中・後期遺構面の調査」岡田 賢

・第５回検討会　2006年10月11日（水）
「千里丘遺跡群の発掘調査について」
小川裕見子

・第６回検討会　2006年11月８日（水）
「平成17・18年度桜井駅跡の発掘調査について」
一瀬和夫

・第７回検討会　2006年12月13日（水）
「余部日置荘」阿部幸一

・第８回検討会　2007年１月10日（水）
「総持寺遺跡の変遷」奥 和之

・第９回検討会　2007年２月14日（水）
「韓国における水利技術について」小山田宏一

・第10回検討会　2007年３月14日（水）
「縄文土器における特徴的胎土―角閃石を含む土器、結晶片岩を含む土器に突ついて―」
河本純一

1－2．発掘調査の現地説明会

・桑原遺跡（茨木市）

日時　2006年４月22日（土）

参加者数：約900人

・蔀屋北遺跡（四條畷市）

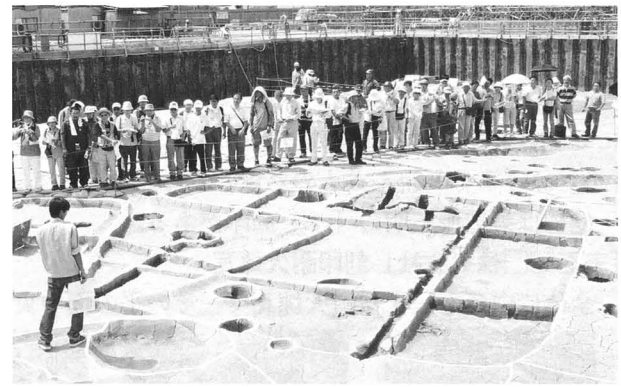
日時　2006年８月12日（土）

参加者数：約300人

・招提中町遺跡（枚方市）

日時　2006年12月23日（土）

参加者数：約80人



第64図　蔀屋北遺跡現地説明会

1－3．博物館実習

2006年８月９日（水）～12日（土）、16日（水）
（計５日間）

博物館実習生（立命館大学生１人）を受け入れ指導した。

1－4．所蔵資料の展示

ａ．府立泉北考古資料館

■速報展

発掘調査と遺物整理事業などの成果をいち早く公開するために「速報展」を開催した。

・第31回「祈りの土器―祭祀に用いた品―」

会　期：2006年３月９日（水）～６月４日（日）

展示品：墨書人面土器７点（萱振遺跡・東郷遺跡・成法寺遺跡）、木製仮面１点（尾道遺跡）、人形６点（西大井遺跡・河合遺跡）、斎串４点（総持寺遺跡・万崎池遺跡）、土馬５点（福井遺跡・船橋遺跡）、ミニチュア土器３点（河合遺跡）、舟形木製品２点（蔀屋北遺跡・はさみ山遺跡）卜骨２点（蔀屋北遺跡）、鳥形木製品（讃良郡条里遺跡）、シカの線刻をもつ１点土器（甲田南遺跡）　計32点

■企画展示

所蔵する出土遺物の中から、特定のテーマによる企画展示をおこなった。

・第１回「出土品に登場する生き物　動物編」

会　期：2006年６月７日（水）～11月５日（日）

展示品：二神二獣鏡１点（馬子塚古墳）、捩文

第65図　出土品に登場する生き物　動物編

鏡１点（玉手山10号墳）、須恵器獣脚付有蓋壺１点（菅生出土）、鬼瓦２点（新堂廃寺）、シカが描かれた土器１点（甲田南遺跡）、鳥形木製品１点（雁屋遺跡）、鶏形埴輪１点（青山４号墳）、瑞花双鴛鴦文八稜鏡２点（大園遺跡）、馬形埴輪１点（青山４号墳）・ウマの下顎骨・歯１点（蔀屋北遺跡）・土馬４点（陶邑窯跡群・福井遺跡・船橋遺跡・国府遺跡）　計16点

・第２回「出土品に登場する生き物　植物編」

会　期：2006年11月８日（水）～2007年６月３日（日）

展示品：ヒョウタン３点・木の葉の痕跡のある土師器甕２点（蔀屋北遺跡）、木の葉の圧痕を付けた土師器椀１点（讃良郡条里遺跡）、水辺水草蝶鳥文鏡１点・桜花双鳥文鏡１点・瑞花鴛鴦文八稜鏡１点・青白磁菊花形合子２点（箕面経塚）、柄鏡１点（堺環濠都市遺跡）、金箔押瓦２点（大坂城跡）、軒丸瓦５点・軒平瓦１点（新堂廃寺）、軒丸瓦２点（海会寺）、軒丸瓦４点・軒平瓦３点（信太寺跡）、軒丸瓦２点（百済寺跡）　計31点

■優品展

「大阪博物場」(1875/明治８年)に設置)が収集した陶磁を「府立大阪博物場旧蔵優品展」シリーズとして公開した。

・第８回「京焼の名工」

会　期：2006年４月６日（水）～７月９日（日）

展示品：染付駿馬文菱水指（奥田頴川）、黄交趾五霊文急須（高橋道八）、刷毛目芋頭急須（高橋道八）、紫交趾牡丹唐草文鉢（永楽保全）、黄交趾梅唐草文三足香炉（永楽保全）、青交趾兎牡丹唐草文饅頭蒸（永楽保全）　計６点

・第９回「南海陶磁」

会　期：2006年７月12日（水）～10月８日（日）

展示品：安南焼青花山水文壺、安南焼青花人物文茶碗、南蛮ハンネラ焼締叩文壺　計３点

・第10回「大阪の陶磁Ⅰ湊焼」

会　期：2006年10月11日（水）～2007年１月７日（日）

展示品：黄釉手桶形水指、黄釉土瓶、飴釉四方水注、黄釉牡丹文皿　計４点

・第11回「大阪の陶磁Ⅱ古曽部焼・吉向焼」

会　期：2007年１月10日（水）～３月11日（日）

展示品：古曽部焼褐釉印花水屋壺、吉向焼黄褐釉亀置物、吉向焼紫釉土風炉　計３点

・第12回「大阪の陶磁Ⅲ難波焼・松斎焼」

会　期：2007年３月14日（水）～５月６日（日）

展示品：難波焼錆絵切落手四方向付２口、難波焼褐釉犬香炉、松斎焼白釉平茶碗計４点

■府庁別館

府庁別館ロビー（１階・８階）に出土遺物を展示した。

・「文様の世界―雁屋遺跡出土の弥生土器―」（１階）

・「総持寺古墳群―太田茶臼山古墳を中心とする在地有力者層の古墳群―」（８階）

会　期：2006年２月15日（水）～８月10日（木）

展示品（１階）：文様のある弥生土器壺・甕・高杯・鉢・手焙形土器・器台（雁屋遺跡）　計９点

展示品（８階）：紡錘車１点、須恵器杯蓋・壺・高杯など５点、馬形埴輪３点、鶏形埴輪１点、家形埴輪２点（総持寺古墳）、円筒埴輪４点（太田茶臼山古墳）

計16点

・「文字・もじ・モジ」展（１階・８階）

会　期：2006年８月11日（金）

～2007年２月23日（金）

展示品：墨書人面土器２点（東郷遺跡・成法寺遺跡）・墨書土器10点（長曽根遺跡・正法寺・大里遺跡・野間遺跡・池田西遺跡）、篦書土器・刻印土器８点（陶器遺跡・大庭北遺跡・総持寺遺跡）、文字瓦７点（池田寺跡・大坂城跡・菱木下遺跡・新堂廃寺・信太寺跡）

計27点

・「土器・どき・ドキ」展（１階・８階）

会　期：2007年２月26日（月）

～2007年８月15日（水）

展示品：須恵器杯蓋２・杯身２・有蓋高杯２・高杯蓋１・無蓋高杯１・はそう１・甕１点・樽型・はそう１・甑１点・壺１・把手付椀２・把手付壺１・蓋１（深田橋遺跡）

計17点

第66図　土器・どき・ドキ展（８階ロビー）

２．資料件数

２－１.出土資料（整理箱数）

■泉北考古資料館（堺市南区若松台）	10,750箱
■泉北収蔵庫（高石市綾園４丁目）	34,438箱
■大井収蔵庫（藤井寺市西大井）	12,580箱
■外環高架下収蔵庫（藤井寺市西古室）	7,490箱
■志紀収蔵庫（八尾市志紀町西）	3,090箱
■北部収蔵庫（摂津市鳥飼中）	3,090箱
■東大阪文化財収蔵庫（東大阪長田東）	73,650箱
■文化財調査事務所（堺市南区竹城台）	9,410箱
合計	154,530箱

２－２.民俗資料

■文化財調査事務所

・谷口家資料	22点
・上辻家資料	13点
・守田コレクション	20点
・上平家資料	15点
・畑野家資料	６点
・三宅家資料	一括
・大恩寺資料	一括
・前西家資料	２件

２－３.写真・図面その他の資料

■文化財調査事務所

・図面資料	4,837ケース
・写真資料	7,225ケース
・台帳	2,710冊
・パネル	725点

２－４.図書

■文化財調査事務所

・図書	36,820冊

平成18年度大阪府教育委員会文化財保護課刊行物一覧

大阪府埋蔵文化財調査報告

2006－１　『野端遺跡』
2006－２　『大町遺跡』
2006－３　『平尾遺跡』
2006－４　『西大井遺跡』
2006－５　『総持寺遺跡Ⅱ』
2006－６　『禁野本町遺跡』
2006－７　『寺田遺跡』

概要報告

『陶器遺跡・陶器千塚・陶器南遺跡』
『平石遺跡発掘調査概要・Ⅰ』
『蔀屋北遺跡発掘調査概要・Ⅵ』
『桜井駅跡発掘調査概要』
『加美・久宝寺遺跡発掘調査概要』
『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報　10』

普及啓発資料

『国重要文化財指定記念　修羅』
　文化財あれこれブックレットNo.２

平成18年度資料貸出・掲載閲覧事業一覧

実物資料・複製資料長期貸出

	申請者	遺跡	資料内容・点数	目的（展示内容等）
1	国立歴史民俗博物館	池上曽根遺跡	石庖丁３　計３点	総合展示「稲と倭人」
2	九州国立博物館	陶邑窯跡群 野々井遺跡 深田橋遺跡	須恵器杯身６・杯蓋５・はそう１・短頸壺２・無蓋高杯１杯蓋２・杯身３・有蓋高杯３・台付長頸壺１・高杯蓋１すり鉢１・把手付椀１・小型壺１・はそう１　計29点	常設展・文化交流展示「海の道、アジアの路」）
3	大阪府立狭山池博物館	池尻城跡 大和川今池遺跡	冑金１ 鋤１　計２点	常設展「中世の土地開発と狭山池」
4	大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）	大坂城跡	美濃焼小鉢１・天目茶碗１・鉄釉丸椀１・鉄釉皿２・灰釉折縁皿１・灰釉菊皿１・灰釉皿１・志野向付１・皿１・中国製白磁１・青花皿１・ベトナム製色絵皿１・金箔瓦４　計17点	常設展示（リフレッシュコーナー）
5	大阪府立西成高等学校	喜志遺跡 八尾南遺跡 萱振遺跡 崇禅寺遺跡 陶器南遺跡	弥生土器甕１ 土師器直口壺２・小形丸底壺１・高杯１・台付甕１ 土師器甕１ 須恵器杯身１・有蓋高杯蓋３・有蓋高杯身３・はそう１・壺１ 須恵器片コンテナ１箱　計16点・コンテナ１箱（須恵器片）	授業・展示
6	大阪府立大手前高等学校	大坂城跡	金箔丸瓦１・飾瓦１・軒平瓦１・文字入り平瓦１・軒丸瓦１・天目茶碗１・須恵器短頸壺１・分銅１・白磁香炉１・美濃水滴１・鳥文青花大皿１・鍔１・笄１　計13点	授業・展示
7	大阪府立三国丘高等学校	向泉寺跡	軒丸瓦10・軒平瓦８・斧瓦３・雁振瓦１・瓦器椀７・土師皿11・すり鉢１・土師質羽釜１・陶磁器５・硯１　計48点	授業・展示
8	大阪府立茨田高等学校	茨田安田遺跡	弥生土器壺２、須恵器杯５・高杯３・碗１・甕４・こね鉢１・その他１、韓式系土器甕１、土師器壺３・甕２・高杯３・碗１・皿４、瓦器碗31・皿１・火鉢１・釜１、磁器碗１、砥石１、下駄２、箸２、人形首１、土錘１、キセル１、加工骨１　計76点	授業・展示
9	大阪府立四条畷高等学校	更良岡山遺跡 雁屋遺跡	円筒埴輪３、須恵器短頸壺１・甕１・提瓶１ 弥生土器壺７・長頸壺１・無頸壺１・無頸壺蓋１・鉢３・鉢蓋１・甕７・台付鉢２・台付甕１・器台３・高杯３・手焙り形土器２、黒色土器椀１、土師器壺２、須恵器平瓶１・無蓋高杯１・蓋杯蓋１・蓋杯杯身２・はそう１・壺１、砥石４、石鏃５　計57点	授業・展示
10	大阪府立八尾北高等学校	萱振遺跡	弥生土器壺１・長頸壺１・無頸１・壺蓋１、土師器壺１、須恵器有蓋高杯１・高杯蓋１・杯身１・杯蓋１・はそう１、円筒埴輪１・蓋形埴輪６、勾玉４・紡錘車２、臼玉８　計31点	授業・展示
11	能勢町歴史資料室	上椿遺跡 尾道遺跡 九ノ坪遺跡 大里遺跡	須恵器甕１ 須恵器杯身１・杯蓋２・円面硯１、土師器高杯１ 黒色土器椀２、土師器小皿３ 弥生土器片１・甕３・無頸壺１・鉢１・蓋１・高杯１、土師器壺１・甕３・器台１・杯２、須恵器杯２・甕３、石庖丁４・石斧３・石錘１・石鏃７　計46点	能勢町歴史資料室（能勢町ふるさと会館内）常設展示
12	豊能町立郷土資料館	余野城跡	瓦器椀７・瓦器片20、土師皿４、須恵器片３、砥石１　計35点	豊能町立郷土資料館常設展示
13	吹田市立博物館	吉志部瓦窯	軒丸瓦１、平瓦１、緑釉陶器片２、緑釉瓦片６、窯道具６　計16点	常設展示「桓武朝平安宮瓦窯」
14	藤井寺市立図書館	三ツ塚古墳	小型修羅１計１点	図書館展示室常設展示
15	堺市立みはら歴史博物館	余部遺跡	瓦器椀27・皿６、土師器皿１、瓦質羽釜１、鋳型片29、鞴羽口18、鉄製刀子１、青銅製品２、鉄塊系遺物７、砥石７　計99点	常設展示「河内鋳物師」
16	太子町立竹内街道歴史資料館	伽山古墓	銀製帯金具（レプリカ）一式	常設展示（第２展示室）
17	池上曽根弥生学習館	池上曽根遺跡	炭化米（No.286）１ケース	常設展示
18	和泉市いずみの国歴史館	府中遺跡 坂本寺跡 大園遺跡 池田寺跡 信太寺跡 和泉寺跡 池上曽根遺跡	弥生土器高杯１・壺７・甕２・蛸壺形土器２ 軒丸瓦６・軒平瓦５ 有舌尖頭器２、子持勾玉２、滑石製勾玉１・紡錘車１ 文字瓦６、軒丸瓦８、軒平瓦１、石製巡方１ 平瓦（人物画像）１・文字瓦４、軒丸瓦１、軒平瓦１ 平瓦２・軒平瓦１・軒丸瓦３ 弥生土器甕１・水差形土器１・高杯３・鉢３・壺７、木製品高杯１・把手付鉢１・鉢１・斧の柄１・布巻具（経巻具）１・用途不明品１・小型四脚付盤２・臼１・杓子２・鍬３・簪５・石錘２・大型石庖丁２・環状石斧２・石斧９・石槍９・投弾３・ヒスイ勾玉１・管玉５・ガラス片３、イノシシの下顎骨１・鹿角１・骨製ヤス２・骨器未製品５・銅鏃２・八稜鏡１　計141点	常設展示
19	サイエンス・サテライト	三軒屋遺跡 池上曽根遺跡	縄文土器１ 弥生土器１　計２点	常設展示「くらしの中の放射線利用」
20	吉志部神社	吉志部瓦窯	軒丸瓦１、軒平瓦１、緑釉瓦片２、トチン２　計６点	社務所玄関ロビーに展示

実物資料短期貸出

	貸出先（申請者）	遺跡	資料名／点数	展覧会名称等
1	大阪府立弥生文化博物館	雁屋遺跡	人物・シャーマンを描いた甕１	春季特別展「弥生画帖－弥生人が描いた世界－」
2	大阪府立近つ飛鳥博物館	新堂廃寺 信太寺跡	人物戯画瓦１ 人物戯画平瓦１	春季特別展「古代の工房－豊なる都・寺のきらめき－」
3	泉佐野市教育委員会	長滝７号墳	須恵器杯蓋４・杯身５・壺２・提瓶１、土師器壺１	新修泉佐野市史発刊記念陳列Ｉ「泉佐野の考古学」
4	大阪府立近つ飛鳥博物館	三ツ塚古墳 津堂城山古墳 応神陵古墳 太田茶臼山古墳	小修羅１ 埴輪２ 埴輪２ 埴輪１	秋季特別展「修羅」重要文化財指定記念「応神大王の時代－河内政権の幕開け－」
5	和泉市久保惣記念美術館	池上曽根遺跡	台付無頸壷1	特別展「和泉を彩る文化財－和泉の文化財と東洋美術の名品－」
6	大阪府立狭山池博物館	西大井遺跡 萱振遺跡	木製人方形１ 墨書人面土器１	特別展「水にうつる願い」
7	大阪府立弥生文化博物館	池上曽根遺跡	弥生土器２、ヒスイ勾玉１	秋季特別展「弥生人躍動す－池上曽根と吉野ヶ里－」
8	（財）大阪府文化財センター （財）大阪市文化財協会 大阪歴史博物館	蔀屋北遺跡	砥石１・韓式系土器瓶１・甕１・平底鉢１・甑１、製塩土器３、ふいごの羽口１、鉱滓３、移動式竈１、木製輪鐙１、鉄製曲刀子１、Ｕ字型板状土製品１	重要調査に関わるシンポジウム「古墳時代に生きた渡来人の軌跡－長原遺跡・蔀屋北遺跡・上私部遺跡を中心に－」
9	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡 讃良郡条里遺跡	韓式系土器壷１・甕１・平底鉢１、須恵器はそう（木栓付）１・高杯２、土師器二口かまど１・煙突１・なべ１、Ｕ字型板状土製品１、鉄製直刃鎌２・刀子１・釣針２・鉄鏃２、卜骨１、木製たたり１・刀形１・えぶり１・木錘１・模型杓子１・横槌１・琴柱１・輪鐙１・櫂１・船形１・船２、鍛冶関連椀形滓２、製塩土器６、製塩土器片一式・紡錘車９、石製勾玉（未製品含む）７・管玉（未製品含む）７・臼玉９・有孔円板14・砥石２、ガラス玉12（以上、蔀屋北遺跡）須恵器はそう２（１点は木栓付）、陶質土器無蓋高杯１・甕１、製塩土器５、土師器甑１、木製剣１・柄１・指揮棒１・コモゲタ１・ツチノコ１・杵１・機織具１・盤２・鞍１（以上、讃良郡条里遺跡）	発掘された日本列島2006地域展「河内湖周辺に定着した渡来人－５世紀の渡来人の足跡－」
10	摂津市教育委員会	千里丘遺跡群	陶磁器８・瓦器９・須恵器６・土師器５・瓦４・石器接合資料22	摂津市内出土遺物展示「摂津市から石器が出土・千里丘陵の縄文文化」
11	滋賀県立安土城考古博物館	木の本遺跡	縄文～弥生土器５・木製鍬未製品２・木製鋤（未製品を含む）２・木製斧柄（未製品を含む）４・石庖丁５・多頭石斧１・独鈷石１	春季特別展「縄文から弥生へ－農耕社会の形成と実年代－」
12	大阪府立弥生文化博物館	雁屋遺跡 木の本遺跡	銅鏃４ 木製飾り弓１	春季特別展「稲作とともに伝わった武器」
13	（財）大阪府文化財センター	四ツ池遺跡 木の本遺跡 古室遺跡 蔀屋北遺跡 讃良郡条里遺跡 東奈良遺跡	儀杖状木製品１ 馬鍬１・飾り弓１・台付槽１ 鉄斧１ 横鍬１ 把頭１・鞍１・刀形１・槽２・皿１・杵軸１・地機径巻具１・机脚部１ 小型杵１	（財）大阪府文化財センター小テーマ展示シリーズここまでわかった考古学「出土木器が語る考古学－弥生時代・古墳時代の諸様相－」
14	大阪府立近つ飛鳥博物館	衣縫廃寺 お亀石古墳 鳥坂寺跡 田辺廃寺 土師寺跡 河内国分寺 正法寺跡 信太寺跡 龍泉寺 新堂廃寺	軒丸瓦１・軒平瓦１ 平瓦１ 軒丸瓦８・軒平瓦３・鴟尾２・戯画平瓦１・文字平瓦１ 金銅製品７・せん仏２・三彩火舎１ 軒丸瓦１ 軒丸瓦１ 軒丸瓦４・軒平瓦２・相輪破片１ 軒丸瓦５・軒平瓦２・墨書土器１ 軒丸瓦４・軒平瓦１・刻印瓦１ 軒丸瓦１ 軒丸瓦３・軒平瓦２・垂木先瓦２・鴟尾１・鴟尾片１・饅頭金物形土製品１・せん仏１・鬼瓦１・須恵器７・土師器４・文字瓦１	春季特別展「河内古代寺院巡礼」
15	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡	ウマ上顎骨１	模型（常設展示資料）製作

資料撮影、写真・図面等貸出・掲載

	依頼者	撮影 掲載 貸出	種類	遺跡	資料内容／点数	目的／掲載誌
1	大阪市立大学	掲載	図面	池田寺跡 信太寺跡 秦廃寺	軒丸瓦９　軒平瓦１ 軒丸瓦６　軒平瓦１ 軒丸瓦４　軒平瓦３	「和泉地域の軒瓦と古代寺院」 『和泉市史紀要』第９集
2	大阪府立弥生文化博物館	貸出 掲載	写真原板カラー	雁屋遺跡	人物・シャーマンを描いた甕１	春季特別展「弥生画帖－弥生人が描いた世界－」
3	大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 掲載	写真	新堂廃寺 信太寺跡	人物戯画瓦１ 人物戯画平瓦１	春季特別展「古代の工房－豊なる都・寺のきらめき－」
4	（株）学生社	掲載	図面	摩湯山古墳	墳丘測量図１（『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告』第３輯）	『古墳時代の王権と軍事』
5	泉佐野市教育委員会	掲載	写真	長滝７号墳	遺物出土状況１（『三軒屋遺跡発掘調査概要』Ⅰ）	新修泉佐野市史発刊記念陳列Ⅰ「泉佐野の考古学」
6	（株）雄山閣	掲載	写真	蕃上山古墳	人物埴輪１（『古墳時代の研究』第９巻）	『古墳時代を考える』
7	（株）新人物往来社	掲載	写真	桑原遺跡	遺跡航空写真１（文化財保護課ホームページ） 横穴式石室と墳丘１（文化財保護課ホームページ）	『月刊歴史読本』2006年８月号
8	富田林市教育委員会	貸出	図面 写真原板カラー	新堂廃寺	航空写真測量図１、測量成果簿１、航空写真・垂直１、航空写真・斜め３	整備事業の資料収集
9	ディスカバリーチャンネル	掲載	写真	一須賀古墳群	金銅製鳳文環頭大刀・環頭部１	テレビ番組「古代の日本」のプロモーション
10	枚方市中央図書館	掲載	写真	招堤中町遺跡	弥生時代中期方形周溝墓１、石庖丁・集合１（『招堤中町遺跡』2001-1）	『楽しく学ぶ枚方の歴史』
11	（株）新泉社	掲載	写真	陶邑窯跡群	陶邑窯跡群関連写真50	『陶邑遺跡群』
12	個人	掲載	写真	陶邑窯跡群	陶邑窯跡群出土須恵器・集合１	『新聞赤旗』学芸コラム
13	富田林市教育委員会	貸出	写真原板カラー	新堂廃寺	航空写真・斜め３	整備事業の資料収集
14	（社）藤井寺青年会議所	掲載	写真	三ツ塚古墳	修羅出土状況１（藤井寺市広報撮影）	しゅら基金助成金交付応募要項の表紙
15	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真原板カラー	三ツ塚古墳 津堂城山古墳 応神陵古墳 太田茶臼山古墳	修羅出土状況４ 埴輪集合１ 埴輪集合１、埴輪外面拡大１ 埴輪１	秋季特別展「修羅」重要文化財指定記念「応神大王の時代－河内政権の幕開け－」
16	和泉市久保惣記念美術館	撮影 掲載	写真	池上曽根遺跡	台付無頸壷1	特別展「和泉を彩る文化財－和泉の文化財と東洋美術の名品－」
17	和泉市教育委員会	貸出 掲載	写真原板カラー	池上曽根遺跡	発掘調査風景３	『和泉市50年のあゆみ』
18	堺市市長	撮影 掲載	ビデオ	陶邑窯跡群	泉北考古資料館展示品	堺観光PRビデオ制作
19	大阪府立狭山池博物館	撮影 掲載	写真	西大井遺跡 萱振遺跡	木製人方形1 墨書人面土器1	特別展「水にうつる願い」
20	社団法人橿原考古学協会	掲載	写真図面	長持山古墳 玉手安福寺横穴 道明寺千塚の露出石室など	墳丘・石室等10（『大阪府史跡名勝天然記念物調査報告』第５輯） 壁画実測図１（『大阪府文化財調査概要1972年度-Ⅰ』）	『ロマイン・ヒッチコック－滞日二ヵ年の足跡』
21	（財）大阪府文化財センター	貸出 掲載	写真原板カラー	蔀屋北遺跡	SK940馬全身骨格の出土状況１ 蔀屋北遺跡調査区全景１ （『蔀屋北遺跡発掘調査概要』Ⅰ）	重要調査に関わるシンポジウム「古墳時代に生きた渡来人の軌跡－長原遺跡・蔀屋北遺跡・上私部遺跡を中心に－」
22	大阪府立弥生文化博物館	撮影 貸出 掲載	写真 写真原板カラー	池上曽根遺跡	弥生土器壷２ ヒスイ勾玉１（撮影なし）	秋季特別展「弥生人躍動す－池上曽根と吉野ヶ里－」

23	（株）新人物往来社	貸出 掲載	写真原板カラー	蔀屋北遺跡	木製鞍１	『月刊歴史読本』2006年12月号
24	個人	貸出 掲載	写真モノクロ	河内飛鳥寺	塔心礎１	「河内御嶺山古墳と河内飛鳥寺」『大阪府立近つ飛鳥博物館館報』11
25	大阪歴史博物館	貸出 掲載	写真モノクロ	田辺廃寺	東塔跡７	特別展「煉瓦のまちタイルのまち」
26	個人	掲載	写真	東奈良遺跡 茨田安田遺跡	木偶頭部１ 木偶頭部１	『日本操り人形史ー形態変遷・操法技術史ー』
27	藤井寺市総務部	掲載	写真	三ツ塚古墳	大小修羅出土状況1	「私のまちのPR」『自治大阪』2006年10月号
28	（財）大阪府文化財センター	掲載	写真	堂山１号墳	須恵器器台1	重要調査に関わるシンポジウム「古墳時代に生きた渡来人の軌跡ー長原遺跡・蔀屋北遺跡・上私部遺跡を中心にー」
29	木簡学会	掲載	写真	萱振遺跡	木簡２	「2005年全国出土木簡大阪・萱振遺跡」『木簡研究』第28号
30	藤井寺市総務部	掲載	写真	三ツ塚古墳	大修羅出土状況1	『市制施行40周年記念誌』
31	個人	掲載	写真	平尾遺跡	発掘調査状況１ 硯・腰帯飾１	『新聞赤旗』学芸コラム
32	（財）長浜曳山文化協会	掲載	写真	大坂城跡	検地枡１	「北近江ー豊・千代博覧会」
33	学研文化社	掲載	写真	蔀屋北遺跡	Ｕ字形板状土製品１	『栄山江流域古墳土器研究』
34	大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 掲載	写真	蔀屋北遺跡 讃良郡条里遺跡	韓式系土器壺１・甕１・平底鉢１、須恵器はそう（木栓付）１・高杯２、土師器二口かまど１・煙突１・なべ１、Ｕ字形板状土製品１、鉄製直刃鎌２・刀子１・釣針２・鉄鏃２、卜骨１、木製たたり１・刀形１・えぶり１・木錘１・模型杓子１・横槌１・琴柱１・輪鐙１・櫂１・船形１・船２、鍛冶関連椀形滓２、製塩土器６、製塩土器片一式・紡錘車９、石製勾玉（未製品含む）７・管玉（未製品含む）７・臼玉９・有孔円板14・砥石２、ガラス玉12（以上蔀屋北遺跡）須恵器はそう２・無蓋高杯１・甕１、製塩土器５、土師器甑１、木製剣１・柄１・指揮棒１・コモゲタ１・ツチノコ１・杵１・機織具１・盤１・鞍１	発掘された日本列島2006地域展「河内湖周辺に定着した渡来人ー５世紀の渡来人の足跡ー」
35	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真原板カラー	蔀屋北遺跡 讃良郡条里遺跡	Ｕ字形板状土製品１・韓式系土器壺１・輪鐙１・遺跡全景２・鞍１・鐙鐙１・大溝出土遺物(集合)１・	発掘された日本列島2006地域展「河内湖周辺に定着した渡来人ー５世紀の渡来人の足跡ー」
36	（株）吉川弘文館	貸出 掲載	写真原板カラー	深田橋遺跡	須恵器把手付壺	『歴史考古学辞典』
37	摂津市教育委員会	貸出 掲載	写真原板カラー	千里丘遺跡群	調査区全景２、第１遺構面検出状況他３、縄文土器出土状況他５	摂津市内出土遺物展示「摂津市から石器が出土・千里丘陵の縄文文化」
38	個人	掲載	写真	蔀屋北遺跡	遺跡航空写真１、竪穴住居跡検出状況他遺構写真４、木製輪鐙１・鐙鐙１・Ｕ字形板状土製品１他５	「蔀屋北遺跡の発掘調査成果について一古墳時代を中心に一」『まんだ』88号
39	（株）ジャパン通信情報センター	貸出 掲載	写真カラー	蔀屋北遺跡	調査区全景１、大溝轡出土状況１	『文化財発掘出土情報』2007年１月号
40	大阪大谷大学	掲載	写真	新堂廃寺	垂木先瓦４（『新堂廃寺発掘調査概要』Ⅱ）	「大阪府富田林に所在するー新堂廃寺の創建の年代-」『志学台考古ー年代・産地・分析等ー』
41	藤井寺市教育委員会	掲載	写真	三ツ塚古墳	大修羅出土状況２	市制40周年記念「巨大古墳の時代をめぐってー修羅と水鳥形埴輪の国重要文化財指定記念ー」

42	（財）大阪府文化財センター	貸出 掲載	写真原板カラー	萱振１号墳	全景１	調査開始25周年記念「考古学からわかる郷土の歴史池島・福万寺遺跡と生駒山西麓の文化財」
43	（株）ジャパン通信情報センター	掲載	写真	桑原遺跡	遺跡航空写真１（文化財保護課ホームページ） 横穴式石室と墳丘１（文化財保護課ホームページ）	『文化財発掘出土情報』2007年２月号
44	「こしの都千五百年プロジェクト」実行委員会・越前市教育委員会	貸出 掲載	写真原板カラー	蔀屋北遺跡	馬骨出土状況１	こしの都千五百年プロジェクト『継体大王ロマンを語る』
45	個人	貸出	写真	はさみ山遺跡	瑞花文八花鏡１	学術研究
46	茨木市教育委員会	掲載	写真	桑原遺跡	遺跡調査位置図、古墳群分布図ほか５	「わがまち茨木年代誌」『わがまち茨木』14冊
47	堺市教育委員会	貸出 掲載	写真原板カラー	余部遺跡	遺跡航空写真１・遺構写真１（『余部遺跡』2001-2）	『河内鋳物師の活躍を求めて』
48	泉大津市教育委員会	貸出 掲載	写真原板カラー	七の坪遺跡	遺構面全景１・水田面足跡１（『七の坪遺跡発掘調査概要』Ⅲ）	「おおつ物語続・土の中の歴史」（４）『広報いずみおおつ』2月号
49	滋賀県立安土城考古博物館	貸出 掲載	写真原板モノクロ	木の本遺跡	木製鍬・鋤１・木製斧柄１・木製鍬未製品１・石庖丁出土状況１、弥生前期遺構面遠景１	春季特別展「縄文から弥生へ一農耕社会の形成と実年代一」
50	八尾市教育委員会	掲載	図面写真	津堂城山古墳	石棺実測図 古墳調査状況１（『大阪府史蹟名勝天然記念物調査報告』第５輯）	「心合寺山古墳の被葬者像を考える」『八尾市文化財紀要』12
51	大阪府立弥生文化博物館	撮影 掲載	写真	雁屋遺跡 木の本遺跡	銅鏃４ 飾弓１	春季特別展「稲作とともに伝わった武器」
52	（財）大阪府文化財センター	撮影 掲載	写真	四ツ池遺跡	儀杖状木製品１	（財）大阪府文化財センター小テーマ展示シリーズここまでわかった考古学「出土木器が語る考古学－弥生時代・古墳時代の諸様相－」
53	大阪府立近つ飛鳥博物館	撮影 掲載	写真	衣縫廃寺 田辺廃寺 土師寺跡 河内国分寺 正法寺跡 信太寺跡 龍泉寺 新堂廃寺	軒丸瓦１　軒平瓦１ 軒丸瓦１ 軒丸瓦１ 軒丸瓦４　軒平瓦２　相輪破片１ 軒丸瓦５　軒平瓦２　墨書土器１ 軒丸瓦４　軒平瓦１　刻印瓦１ 軒丸瓦１ 軒丸瓦８　軒平瓦３　鴟尾２　戯画平瓦１　文字平瓦１ 軒丸瓦１ 軒丸瓦５　軒平瓦２　墨書土器１ 軒丸瓦１	春季特別展「河内古代寺院巡礼」
54	大阪府立近つ飛鳥博物館	貸出 掲載	写真原板カラー	新堂廃寺 鳥坂寺跡 お亀石古墳 田辺廃寺 河内国分寺跡	鴟尾１、鬼瓦・文字瓦１（掲載のみ） 金銅製品７、塼仏２、三彩火舎１ 平瓦１ 東塔１・西塔１ 塔跡	春季特別展「河内古代寺院巡礼」
55	八尾土木事務所	貸出 掲載	写真原板モノクロ	大県郡条里遺跡	弥生土器集合１ 須恵器集合１ 瓦器・瓦質土器・土師器集合１ 調査トレンチ全景１ （『大県郡条里遺跡確認調査概要』2005.3）	広報誌「一級河川恩智川法善寺多目的遊水地事業」
56	大阪歴史学会	掲載	写真	岸和田城跡	岸和田城跡発掘調査風景４	岸和田市民歴史シンポジウム・Ⅵ、大阪歴史学会見学検討会再発見！岸和田城・城下町の魅力
57	（株）青木書店	掲載	写真	河内国分寺跡 応神陵古墳外堤	軒瓦１ 丸瓦１、軒丸瓦１、平瓦１、軒平瓦１	「京外離宮の造営と都城制」『都城とシンボリズム』
58	泉大津市教育委員会	貸出 掲載	写真原板カラー	七の坪遺跡	発掘調査地全景１	「おおつ物語続・土の中の歴史」（５）『広報いずみおおつ』３月号

59	河内長野市教育委員会	掲載	図面	喜志遺跡	弥生土器実測図１（『喜志遺跡・東阪田遺跡発掘　文化財普及啓発本調査概要』Ⅵ）
60	京都大学学術出版会	掲載	写真	蔀屋北遺跡	馬骨出土状況１　『古代日本国家形成の考古学』

資料閲覧

	申請者（所属）	遺跡、その他	資料内容
1	韓神大学・立命館大学・京都大学大学院	蔀屋北遺跡	土師器・韓式系土器
2	大阪大学大学院	蔀屋北遺跡	土師器・韓式系土器
3	大野城市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館・基準資料）・陶棺
4	大阪大学大学院	蔀屋北遺跡	土師器・韓式系土器
5	大阪市立大学・（財）大阪府文化財センター	馬子塚古墳	斜縁二神二獣鏡・管玉
6	大阪府立近つ飛鳥博物館	応神陵古墳・太田茶臼山古墳・津堂城山古墳	円筒埴輪
7	（財）大阪府文化財センター	讃良郡条里遺跡・東奈良遺跡・亀井遺跡・田井中遺跡ほか	木製剣・機織具・盤・枠など
8	大阪府立狭山池博物館	西大井遺跡・讃良郡条里遺跡・萱振遺跡ほか	墨書人面土器・木製船形・木製人形
9	同志社大学大学院	喜志遺跡	石器
10	（財）大阪府文化財センター	池上曽根遺跡・野々井遺跡・四ツ池遺跡・桧尾塚原古墳	木製品・袋状鉄斧
11	（財）大阪府文化財センター	蔀屋北遺跡	韓式系土器・須恵器・製塩土器・木製輪鐙・曲刀子・Ｕ字型板状土製品・鉄鉱など
12	国立歴史民俗博物館	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館・基準資料）
13	和泉市教育委員会	池上曽根遺跡	写真（調査風景）
14	大手前大学史学研究所	萱振遺跡	弥生土器・土師器
15	京都大学大学院	鳳東町４丁遺跡	縄文土器
16	韓国考古環境研究所	蔀屋北遺跡	韓式系土器・須恵器・製塩土器・木製輪鐙・曲刀子・Ｕ字型板状土製品・鉄鉱など
17	大阪府立弥生文化博物館	池上曽根遺跡	弥生土器
18	（財）大阪府文化財センター	陶邑窯跡群・堂山１号墳	須恵器
19	京都大学大学院	讃良郡条里遺跡	機織具・枠など
20	富田林教育委員会	新堂廃寺	垂木先瓦
21	大阪府立門真西高校	雁屋遺跡	手焙形土器
22	天理大学	東郷遺跡	特殊器台
23	同志社大学大学院	喜志遺跡・上遺跡・寛弘寺遺跡	石器
24	同志社大学大学院	寛弘寺遺跡	石器

25	大手前大学史学研究所	成法寺遺跡	土師器
26	富田林教育委員会	新堂廃寺	垂木先瓦
27	京都女子大学	八尾南遺跡・今池遺跡	石器
28	同志社大学大学院	寛弘寺遺跡	石器
29	（財）大阪府文化財センター	萱振遺跡・崇禅寺遺跡	製塩土器
30	（財）大阪府文化財センター	河内飛鳥寺	写真（心礎）
31	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡・長保寺遺跡	韓式系土器・須恵器・製塩土器・U字型板状土製品・鉄鉱など
32	（財）大阪府文化財センター	八雲遺跡	弥生土器
33	奈良大学	蔀屋北遺跡	土師器
34	奈良大学	蔀屋北遺跡	土師器
35	大阪大学大学院	安威遺跡	土師器・須恵器
36	総持寺	総持寺遺跡	軒丸瓦
35	大阪大学大学院	安威遺跡	土師器・須恵器・韓式系土器
38	韓国国立中央博物館	陶邑古窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
39	高石市教育委員会・（財）京都市埋蔵文化財研究所・神戸市埋蔵文化財センターほか	陶邑古窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
40	（財）大阪府文化財センター	大和川今池遺跡	遺構図
41	熊本大学	弁天山Ｄ２号墳・萱振１号墳・土師ノ里遺跡・総持寺23号墳・総持寺29号墳など	家形埴輪・盾形埴輪・蓋形埴輪など
42	大手前大学・奈良大学	陶邑古窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
43	香川県埋蔵文化財センター	陶邑古窯跡群	須恵器(泉北考古資料館・基準資料)
44	滋賀大学	蕃上山古墳	埴輪
45	（財）大阪府文化財センター	東郷遺跡	軒丸瓦
46	（財）滋賀県文化財保護協会	宇度墓古墳・西小山古墳・西陵古墳	円筒埴輪
47	（財）大阪府文化財センター	古室遺跡・木の本遺跡	斧柄・容器・飾弓・鍬など
48	堺市教育委員会	信太寺跡・池田寺跡・新堂廃寺	文字瓦
49	泉南市教育委員会	海会寺・男里遺跡	瓦・弥生土器
50	柏原市教育委員会・交野市教育委員会	蔀屋北遺跡	鍛冶関連資料
51	大阪府立弥生文化博物館	雁屋遺跡	銅鏃
52	大阪府立弥生文化博物館	木の本遺跡・田井中遺跡・志紀遺跡	弓・剣形木製品
53	堺市教育委員会	信太寺跡	文字瓦
54	堺市教育委員会	鳥坂寺跡	文字瓦
55	大阪府立近つ飛鳥博物館	鳥坂寺跡	軒丸瓦・軒平瓦鴟尾・文字瓦

56	滋賀県立安土城考古博物館	木の本遺跡	縄文土器・弥生土器・鋤・斧柄・石庖丁・多頭石斧・独鈷石
57	（財）大阪府文化財センター	四ツ池遺跡・木の本遺跡・讃良郡条里遺跡・東奈良遺跡・蔀屋北遺跡・古室遺跡	木製品
58	京都大学	鳳東町４丁遺跡	縄文土器
59	京都大学	鳳東町４丁遺跡	縄文土器
60	堺市教育委員会	ガラス乾板写真資料	梵鐘関係
61	奈良県立橿原考古学研究所	蔀屋北遺跡	韓式系土器・須恵器・製塩土器・木製輪鐙・曲刀子・Ｕ字型板状土製品・鉄滓など
62	栃木県立博物館・浙江省博物館	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館・基準資料）
63	個人	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館・基準資料）
64	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡	ウマ全身骨格出土土壙遺構図・土壙樹脂製型
65	（財）大阪府文化財センター	淡輪遺跡	縄文土器
66	大阪府立近つ飛鳥博物館	河内国分寺跡・龍泉寺・池田寺・衣縫廃寺・鳥坂寺跡・新堂廃寺・正法寺跡・信太寺跡・土師寺跡・田辺廃寺・ほか	軒丸瓦・軒平瓦・鴟尾・鬼瓦・土師器・須恵器・宝輪・水煙
67	寝屋川市教育委員会	蔀屋北遺跡	Ｕ字型板状土製品
68	和泉市教育委員会	観音寺遺跡	須恵器
69	高麗大学校考古環境研究所	蔀屋北遺跡・讃良郡条里遺跡	韓式系土器・須恵器・土師器・製塩土器・木製輪鐙・曲刀子・Ｕ字型板状土製品・鉄滓など
70	朝日カルチャー	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館・基準資料）
71	高麗大学校考古環境研究所	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館・基準資料）
72	出土木器研究会	蔀屋北遺跡・木の本遺跡・田井中遺跡・讃良郡条里遺跡ほか	木製品
73	国立扶餘文化財研究所	蔀屋北遺跡・讃良郡条里遺跡	ガラス玉鋳型・ガラス玉
74	京都橘大学	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館・基準資料）
75	大野城市教育委員会	陶邑窯跡群	須恵器・陶棺
76	（財）中原文化財研究院	蔀屋北遺跡	韓式系土器・須恵器・土師器・など
77	福岡大学	土師の里遺跡・古室山古墳・美園古墳・堂山１号墳など	埴輪
78	（財）中原文化財研究院	陶邑窯跡群	須恵器（泉北考古資料館・基準資料）
79	大阪府立近つ飛鳥博物館	蔀屋北遺跡	ウマ上顎骨
80	摂津市教育委員会	千里丘遺跡群	陶磁器・瓦器・須恵器・土師器・石器接合資料

平成18年度文化財保護課・文化財調査事務所組織図

【文化財保護課】

TEL 06（6941）0351（代表）

課長			
参事			
保存管理グループ			
指定文化財グループ			
調査管理グループ	資料総括	主査　橋本高明	センター指導・調整、事業量調査等
分室長	主査　宮野淳一	主査　大崎喜久雄	積算及び竣工等
玉井　功		主査　三宅正浩	遺物整理、泉北考古資料館協力等
			写真・保存処理、資料貸出等
		技師　藤田道子	遺物整理等
調査第一グループ	調査第一総括	主査　一瀬和夫	発掘調査・調整・指導（豊能・三島）
調査第一補佐	主査　岩崎二郎	主査　辻本　武	発掘調査・調整・指導（中・北河内）
瀬川　健		技師　奥　和之	発掘調査
		技師　岩瀬　透	発掘調査
		技師　井西貴子	発掘調査
		技師　岡田　賢	発掘調査
		技師　小川裕見子	発掘調査
調査第二グループ	調査第二総括	主査　藤澤眞依	発掘調査・調整・指導（泉州）
調査第二補佐	主査　西口陽一	主査　小山田宏一	発掘調査・調整・指導（南河内）
高島　徹		技師　桝本　哲	発掘調査
		技師　上林史郎	発掘調査
		技師　阿部幸一	発掘調査
		技師　地村邦夫	発掘調査
		技師　杉本清美	発掘調査
		技師　関　真一	発掘調査

【文化財調査事務所】

TEL 072（291）7401

大阪府教育委員会文化財調査事務所年報11
発行日　2007年11月30日
発　行　大阪府教育委員会
〒540－8571
大阪市中央区大手前２丁目
☎06－6941－0351
編　集　大阪府教育委員会文化財調査事務所
〒590－0105
堺市南区竹城台３丁21－４
☎072－291－7401
印　刷　株式会社　近畿印刷センター
柏原市本郷５丁目６番25号
☎072－972－5918